



ともに前へ!

特別支援教育に役立つ

# 実践事例等教材・教具集

# 2





## もくじ

### 各教科・領域・自立活動等に役立つ教材・教具

#### 1. 小学部の教材・教具

国語、せいかつ、算数、図画工作、自立活動 等…………… P4

#### 2. 中学部の教材・教具

音楽、外国語、自立活動 等…………… P23

#### 3. 高等部の教材・教具

国語、美術、家庭、自立活動、職業、特別活動 等…………… P34

### 活動実践事例

アセスメント（感覚と運動の高次元簡易・標準チェックリスト）…………… P49

劇指導…………… P50

FBM（ファシリテーション・ボール・メソッド）…………… P51

視線入力装置…………… P54

交流学习…………… P57

### 研修資料 等

自閉スペクトラム症（ASD）の理解と支援…………… P59

同和問題に関する人権学習の在り方…………… P60

ボランティア養成講座…………… P63

防災士育成研修での取組み…………… P66

学校看護師配置に向けて…………… P69




各教科・領域・自立活動等に  
役立つ教材・教具



## 【教材・教具】ICT 活用



教科・領域	自立活動・個別学習・キャリアアップタイム 等
名称	カメラ機能を使った個別学習での児童の活動記録
写真 使用方法	<p>① 個別学習での様子を各児童の一人一台端末 (iPad) の『カメラ』アプリで写真や動画を撮影する。 (例: スパイダーシステムやファシリテーションボールを用いた身体の活動)</p> <p>② 撮影した写真/動画を『写真』アプリで視聴する。</p> <p>③ 写真については、特記事項を編集メニューの『マークアップ』機能を使ってタッチペンで直接記入する。</p> <p>撮影した写真/動画をアセスメントや評価の材料として活用する。</p>
対象児童生徒 学年・グループ	小学部 AB 低グループ
素材・作り方等	<ul style="list-style-type: none"> <li>一人一台端末 (iPad)</li> <li>アプリ『カメラ』(標準アプリ)</li> <li>アプリ『写真』(標準アプリ)、編集メニュー (マークアップ機能 )</li> <li>スマートフォン用の簡易タッチペン (100 円ショップで購入。)</li> </ul>
使ってみて (効果・反省等)	<ul style="list-style-type: none"> <li>撮影した写真/動画は、指導計画作成のためのアセスメントや評価、記録として活用することができた。</li> <li>マークアップ機能で、気づきをすぐに画像に文字や矢印などで直接書き込むことができ大変便利だった。</li> <li>視覚的に活動を振り返ることができ、その場では気づかなかったことを後に発見することもできた。</li> <li>一人一台端末なので、当該の児童データのみを残せる点が大きなメリットである。次年度以降の引継ぎにも使用することができる。</li> </ul>
保管場所 又は所有者	校内 (一人一台端末用充電保管庫)





## 【教材・教具】ICT 活用



教科・領域	せいかつ・自立活動・個別学習・キャリアアップタイム 他
名称	スイッチを押して写真を撮ろう
写真 使用方法	<p>学習例1：せいかつ：『春』を探そう</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 各自が見つけて興味を持った花などを、一人一台端末 (iPad) の『カメラ』アプリを使用して撮影する。</li> <li>② 振り返りの時間に、各自の端末を電子黒板にミラーリングし、撮影した写真を写しながら報告することで、活動を共有する。</li> </ol> <p>学習例2：インカメラで自分の姿を写そう</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 一人一台端末 (iPad) の『カメラ』アプリで、インカメラ (ディスプレイ側のカメラ) を使用する。</li> <li>② 鏡のように児童の顔・姿を映す。</li> <li>③ 撮影 (自撮り) して、鑑賞する。</li> </ol> <p>※ 画面の任意の部分 (シャッターボタン) をタップすることが難しい児童のために、スイッチとスイッチインターフェイスを組み合わせる。</p>
対象児童生徒 学年・グループ	小学部 AB 低グループ
素材・作り方等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 一人一台端末 (iPad)</li> <li>・ アプリ『カメラ』 (標準アプリ)</li> <li>・ スイッチインターフェイス『i+Pad タッチャー』または『フックプラス』</li> <li>・ ビッグスイッチ 他、児童の実態に応じたタイプのアクセシビリティ・スイッチ</li> </ul> <p>(参考) イヤホンジャックに接続するシャッターボタン (100円ショップで購入。) も使える。</p>
使ってみて (効果・反省等)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 児童から離れた場所に咲く花でも拡大して手元で提示できる。画面に映る花等によく注目することができていた。</li> <li>・ ケーブルをつなぐだけで電子黒板にすぐにミラーリングすることができた。</li> <li>・ インカメラを使った自撮りでは、児童の反応も良く、画面に映る自分に向かって呼び掛けるように声を出したり、頭を動かしながら見つめたりする様子が見られた。</li> <li>・ スイッチ操作と撮影の因果関係を理解できるようになるためには、他のスイッチ教材も活用しながら、中長期的な取組みが必要だと考える。</li> </ul>
保管場所 又は所有者	校内 (一人一台端末用充電保管庫、ICT 支援機器貸出口ッカー) シャッターボタン 私物 (100円ショップで購入可能)







## 【教材・教具】ICT 活用



教科・領域	自立活動（個別学習）
名称	『画面に触れて楽しもう』～音・映像によるシンプルなタップゲームによる『因果関係の理解』を促す学習～
写真 使用方法	<p><b>【ポイント】</b> 事前に『アクセスガイド』をオンにする</p> <p>① 初回設定方法</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「設定」&gt;「アクセシビリティ」&gt;「アクセスガイド」と選択してから、「アクセスガイド」をオンにする。</li> <li>「アクセスガイドのパスコードを設定」をタップしてから、パスコードを入力する。</li> <li>アクセスガイドのセッション中のショートカットをオンにする。</li> <li>その他、任意で時間制限、画面の自動ロックを調整する。</li> </ul> <p>② 使用するアプリを起動する。</p> <p>③ ホームボタンを3回クリックし、『アクセスガイド』を選んでオンにする。（必要に応じて、タップ操作の無効画面の領域を設定する。）「開始」をタップ。</p> <p>これで、児童による操作中に『意図しないアプリの切り替わり』や『広告リンクを開く』ことを防ぐ。</p> <p>※ 画面の任意の部分をタップすることが難しい児童のために、スイッチとスイッチインターフェイスを組み合わせる。</p>
対象児童生徒 学年・グループ	小学部 AB 低グループ
素材・作り方等	<ul style="list-style-type: none"> <li>一人一台端末（iPad）</li> <li>設定アプリ・アクセシビリティ機能「アクセスガイド」</li> <li>アプリ『Fluid Simulation』、『i♥Fireworks Lite（花火）』、『ピアノあそび』、『キラキラお絵かき for iPad』、『Horns』等</li> </ul>
使ってみて （効果・反省等）	<ul style="list-style-type: none"> <li>音や映像の変化に気づき、確かめるように何度も画面に触れる様子が見られた。特に『Fluid』では画面上に湧き出るように表示されるマール模様を見て夢中でタップしていた。</li> <li>画面をなでるように手で触れると意図せずにアプリが切り替わってしまうことがある。『アクセスガイド』をオンにしておくことで、一つのアプリで集中して使用することができるので、必須の設定である。</li> <li>視覚で対象をとらえることに困難がある児童については、スイッチとスイッチインターフェイスを併用し、スイッチ入力で音を楽しめるようにする。『i♥Fireworks Lite（花火）』は音に興味を持ち、何度もスイッチに手をのぼして入力できた。</li> </ul>
保管場所 又は所有者	校内（一人一台端末用充電保管庫、ICT 支援機器貸出口ッカー）

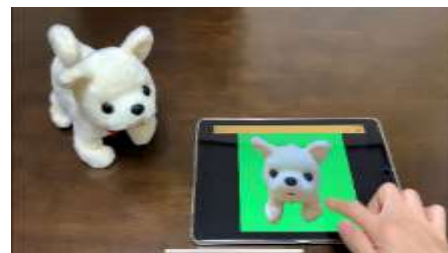




## 【教材・教具】ICT 活用




教科・領域	自立活動・個別学習・キャリアアップタイム 他
名称	『写真をタップしてチワちゃんと遊ぼう』VOCA と電動玩具の組み合わせ教材
写真 使用方法	<p>① VOCA（音声出力コミュニケーション装置）アプリ『タッチ&amp;びーぷ』で、子犬の玩具のシンボルを作成する。（音声には歌『おもちゃのチャチャ』のサビを使用。）</p> <p>② アプリ『タッチ&amp;びーぷ』とスマート乾電池『MaBeee』を連携させて、シンボルの音声（歌）が再生中に子犬の玩具が動くようにする。</p> <p>③ 玩具の写真に触れると、玩具が動くという因果関係を意識しながら遊ぶ。</p> <p>※ 画面の任意の部分（シャッターボタン）をタップすることが難しい児童のために、スイッチとスイッチインターフェイスを組み合わせ使用。</p>
対象児童生徒 学年・グループ	小学部 AB 低グループ
素材・作り方等	<ul style="list-style-type: none"> <li>一人一台端末（iPad）</li> <li>スマート乾電池『MaBeee』</li> <li>アプリ『タッチ&amp;びーぷ』 （アプリ内設定で MaBeee と連携させる。再生中に玩具が作動するように設定する。）</li> <li>乾電池駆動の子犬（チワワ）の玩具</li> <li>スイッチインターフェイス『i+Pad タッチャー』</li> <li>ビッグスイッチ 他、児童の実態に応じたタイプのアクセシビリティ・スイッチ</li> </ul>
使ってみて （効果・反省等）	<ul style="list-style-type: none"> <li>どの児童も繰り返し取り組む中で、ディスプレイに映る子犬の写真に触れると、実物の玩具の子犬が動くという因果関係に気づき、操作して遊べるようになった。歌が再生されることに興味を持つ児童もいて、聞きながら確かめるように画面に触れていた。</li> <li>スイッチを操作することで玩具が動き、音声再生される VOCA と玩具の組み合わせ教材は、児童の主体性やコミュニケーションの意欲を伸ばすために有効な教材であると感じた。</li> </ul>
保管場所 又は所有者	校内（一人一台端末用充電保管庫、ICT 支援機器貸出口カー） 子犬（チワワ）玩具 私物





## 【教材・教具】ICT 活用

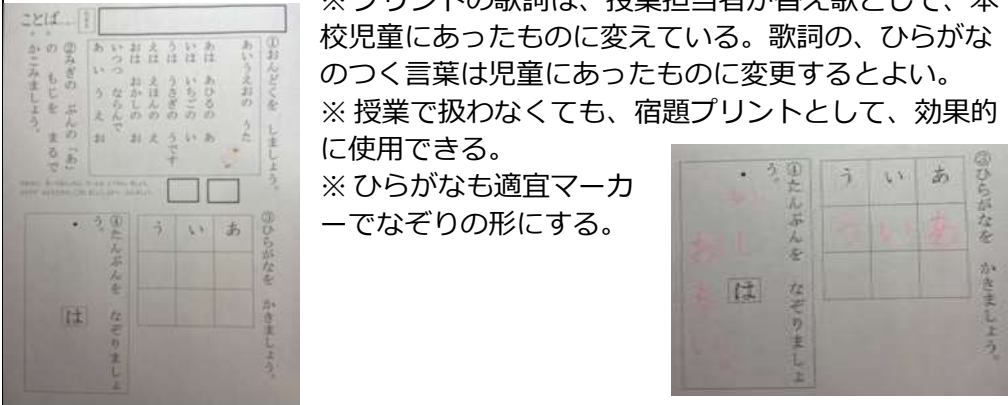


教科・領域	個別学習・キャリアアップタイム 他
名称	先生と一緒に YouTube タイム
写真 使用方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>YouTube 等のインターネット上の動画・音楽メディアを、指導者と一緒に鑑賞し、そこで生まれる反応や、それに対する言葉がけなどのやりとりにより、コミュニケーションの経験を重ねる。</li> <li>一つの画面を二人で見ることにより、自分と他者との『体験の共有』を感じられるようにする。</li> </ul> <p><b>【厳禁】必ず指導者が傍につき、端末を与えっぱなしにしないようにする。</b></p>
対象児童生徒 学年・グループ	小学部 AB 低グループ
素材・作り方等	<ul style="list-style-type: none"> <li>一人一台端末 (iPad)</li> <li>アプリ『YouTube キッズ』 子ども向けのコンテンツが豊富で、ユーザーインターフェイスも直感的でわかりやすい。動画サムネイルも大きくて見やすく、選びやすい。</li> </ul> <p>初期設定時に保護者の年齢認証が必要であり、担当教員が代行した。Google workspace でのログインは行わない。</p> 
使ってみて (効果・反省等)	<ul style="list-style-type: none"> <li>初めはやみくもに画面に触れたり、端末を抱え込んだりしていたが、それでは動画を楽しめないということを経験的に理解し、指導者の言葉がけや働きかけを受け入れ、落ち着いて視聴できるようになってきた。</li> <li>興味あるシーンでは笑いながら指導者の顔を覗き込んで共感を求めたり、指導者の手を取って見たい動画のサムネイルに触れようとしたり、児童と端末と指導者の三項関係も見られるようになった。</li> <li>『スマホ子守り』に代表されるようなネガティブな印象のある YouTube 動画の視聴だが、与えっぱなしにすることが問題なのであり、指導者と一緒に鑑賞し、体験を共有することで、有意義なコミュニケーションツールとしても機能することが実感できた。</li> </ul>
保管場所 又は所有者	校内 (一人一台端末用充電保管庫、ICT 支援機器貸出口ッカー)



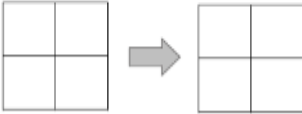
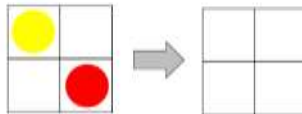
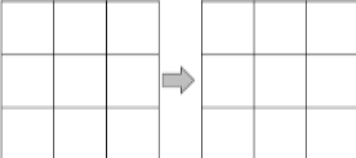
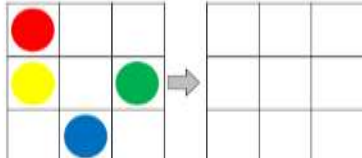


## 【教材・教具】国語

教科・領域	ことば（国語）
名称	ひらがな学習 「あいうえおの歌」宿題プリントひな型
写真 使用方法	<p>① 授業の中で、「あいうえおの歌」（宇野正寛作曲）を短時間取り扱う。簡単なメロディ、歌詞なので覚えやすい。</p> <p>② 宿題プリントとして定着を図る。</p> <p>※ プリントの歌詞は、授業担当者が替え歌として、本校児童にあったものに変えている。歌詞の、ひらがなのつく言葉は児童にあったものに変更するとよい。</p> <p>※ 授業で扱わなくても、宿題プリントとして、効果的に使用できる。</p> <p>※ ひらがなも適宜マーカーでなぞりの形にする。</p> 
対象児童生徒 学年・グループ	<p>小学部 C低グループ</p> <p>① 国語 2段階の②グループ（いくつかのひらがなが読める）</p> <p>② 下学年対応 1年の国語のグループ（ひらがなは読めるが、書けない1年生）</p> <p>※ ひらがなの学習をしても、なかなか覚えられない児童。</p> <p>※ ひらがな学習開始後、間がない児童。</p>
素材・作り方	<p>A4用紙1枚（ワープロソフト）でひな形プリントを作り、ア行からラ行まで45種類展開した。各行5枚（短文作りはなぞり版と記入版を作り、全90種類作成した。なぞり版は、印刷後、教師がマーカーで手書きする。）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「あいうえおの歌」の各行の音読の課題を入れる。</li> <li>「ひらがなの書き」は、児童が、文字を書ける大きさの記入欄にする。（児童の段階によって、ひな型印刷後、マーカーでのなぞりにする。）</li> <li>短文作りの課題も含め、ひらがな学習の見通しを持たせる。</li> </ul>
使ってみて (効果・反省等)	<p>① 文章中で、見て分かるひらがなが、増えた。語彙が増えた。</p> <p>② 短文作りの中でひらがなを書く経験も無理なく増やせた。</p> <p>※ シンプルな作りであるので、苦手なひらがなが把握しやすく、繰り返し扱い、定着を計りやすい。</p>
保管場所 又は所有者	<ul style="list-style-type: none"> <li>中津支援学校 共有フォルダ 90種類</li> <li>印刷済みプリント90枚、及び、短文マーカー記入プリント45枚</li> </ul>




## 【教材・教具】 自立活動

教科・領域	自立活動（個別学習）
名称	ビジョントレーニング
写真 使用方法	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>目 的（仮定）</p> <p>おなじいろ おなじびしょに シールを はりましょう。</p>  </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>目 的（仮定）</p> <p>おなじいろ おなじびしょに シールを はりましょう。</p>  </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">  </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">  </div> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 左側の見本部分にシールを貼っておく。</li> <li>• 5～10 分程度取り組む（必要に応じた枚数を用意）。</li> </ul>
対象児童生徒 学年・グループ	小学部 1～3 年 C 低グループ
素材・作り方	プリントを印刷し、左側の見本部分にシールを貼る。 必要な分のシールを用意する。
使ってみて (効果・反省等)	<p><b>目的</b> ビジョントレーニングの中の視空間認知を高める課題を用意した。対象物の色や形や位置などを把握する力で、目から入った情報を脳で処理する力を高めることを目的とした。</p> <p><b>反省</b> 取り組み始めは、左右逆になることもあったが、見本部分と見比べるように促し、回数を重ねるうちにできるようになった。 児童の実態に応じて、4マスから段階的に取り組んでいくのもよい。</p> <p><b>効果</b> ひらがなの形に注目するようになり、読めるひらがなが増えた。</p>
保管場所 又は所有者	本校 小学部



## 【教材・教具】 図画工作

教科・領域	図画工作
名称	マラカスをつくろう ～身近なものをつかって～（全2回）
写真 使用方法	<p><b>ねらい</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>切る、貼る、ちぎる等手先を使って活動する。</li> <li>材料の名称を知り、語彙数を増やす。</li> <li>指示を聞いて活動できる。</li> <li>色や柄等、自分のイメージするオリジナルマラカスを作ることができる。</li> <li>自分で作った楽器を使って演奏することができる。</li> <li>頑張ったところ、お気に入りのところ等、作ったところを思い出しながら話をすることができる。</li> </ul> 
対象児童生徒 学年・グループ	小学部 1～3年 C低グループ
素材・作り方	<p><b>素材</b> 珊瑚・どんぐり・卵パック・割り箸・マスキングテープ・カラーテープ・シール油性ペン・ビニールテープ・セロハンテープ・はさみ・手順表</p> <p><b>作り方</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>わりばしにまくテープをえらぶ。</li> <li>わりばしにテープをまく。</li> <li>わりばしをたまごパックにはる。★でっばているところにはる。</li> <li>なかにいれる「そざい」をえらぶ。★10こ</li> <li>「そざい」をいれて、セロハンテープでたまごパックをとじる。</li> <li>たまごパックのふちにはるテープをえらぶ。</li> <li>セロハンテープのうえからテープをはる</li> </ol>
使ってみて (効果・反省等)	使用する素材の名前を聞くと、知らないものも多かった。何なのか、どう使うのか等動画や実践を基に伝えた。数種類あるテープから好きな色や柄を選び、飾り付けた。音楽が好きな児童が多く、自分で作った楽器で演奏することに期待感をもてた。完成後、1人ずつ前にでて、「やまのおんがくか」（一部替え歌）をピアノに合わせて演奏した。
保管場所 又は所有者	本校 小学部




## 【教材・教具】算数・自立活動

教科・領域	算数、自立活動
名称	算数「カードさがし」、自立活動「教室サーキット」
写真 使用方法	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"><div style="text-align: center;"><p>写真①</p></div><div style="text-align: center;"><p>写真②</p></div></div> <p>課題ができた際に、写真②のように、自分の写真カードの隣の枠に貼り付け、できたことを可視化する。</p>
対象児童生徒 学年・グループ	小学部 1～3年 C低グループ
素材・作り方	<ol style="list-style-type: none"><li>① イラストをカラーコピーしラミネートする。</li><li>② 裏面に磁石を貼り付ける。</li></ol> <p>★写真①のように、児童の手指の操作性によって、厚みのある磁石を使うと操作がしやすい。</p>
使ってみて (効果・反省等)	できたことやあと何回するのかが見てわかるので、できた感や見通しをもって活動することができる。また、貼ることで活動の終わりとする事で、「終わり」がわかりやすかった。花丸が欲しいから頑張るといった意欲にも繋げることができた。「指示された枠に貼る」という課題を設定することもできる。児童によっては、簡単な活動の為、飽きて取って他の枠に貼ることもあった。
保管場所 又は所有者	本校 小学部



## 【教材・教具】 自立活動

教科・領域	集団自立活動
名称	手洗い名人になろう
写真 使用方法	<p><b>使用方法</b></p> <p>①手順表 これを見て手洗いを行う。覚えてきたら、忘れていたところだけ見せる、手順表なしで手洗いをする等段階的に取り組む。授業後は手洗い場に貼り、思い出せるようにする。</p> <p>②手形メダル 最初の授業で提示して意欲を高め、全授業の最後に渡し、達成感がもてるようにする。</p> <p>③手形、ばい菌カード 実際の菌は目に見えない為、説明をする際に使用。教室内のもの(ロッカー等)に貼り、触って手形に付けてイメージがもてるようにする。</p> 
対象児童生徒 学年・グループ	小学部 1～3年 C低グループ
素材・作り方	<p>①～③全てワープロソフトで作成しカラー印刷をしてラミネートする。</p> <p>①手順表は、写真を添付し字を読むことが難しい児童も見てわかるようにした。</p>
使ってみて (効果・反省等)	<p>全3回実施した。①いつ?なぜ?手を洗うのか、②手洗い動画(しまじろう・あわあわてあらい)、③手を洗おう(実技)、④きれいな手で食べよう、⑤メダル授与 の5つの内容に取り組んだ。ばい菌カードを用いることで、なぜ手を洗うのかを理解できた。手洗いの場面は児童同士で見合いができるように座席配置をした。メダルをもらったことで、「できた」を感じることができていた。また、ただ練習をするのではなく、手をきれいに洗った後にヨーグルトを食べ、満足感が得られるように工夫した。授業後、トイレに行った時等に口ずさんで手を洗ったり、歌詞の順番に手を洗ったり姿が見られた。</p>
保管場所 又は所有者	本校 小学部





## 【教材・教具】 図画工作

教科・領域	図画工作
名称	新聞紙で遊ぼう ～宝探し～
写真 使用方法	<p>① 新聞紙を8分の1の大きさに切る。 ② 新聞紙の中に入れて丸める。ふたが入っていないものも作る。 ③ 宝探しをする。</p> <p>ルール</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 時間内に何個見つけられるか</li><li>・ 一番多く見つけた人の勝ち</li></ul> 
対象児童生徒 学年・グループ	小学部 1～3年 C低グループ
素材・作り方	<p>① イラストをカラーコピーして丸く切り、ラミネートする。 ② 両面テープを貼ってペットボトルのふたに貼り付ける。</p>
使ってみて (効果・反省等)	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 新聞紙遊びにおいて、簡単なルールのある遊びができないかと考え、作成した。イラストは児童が興味のあるものを選んだ。また、新聞紙の中に入れて丸める活動を行うことで、手指の巧緻性を高めることもできた。何個見つけたかを数えることで、「数を数える」学習にも取り組むことができた。</li><li>・ 口に入る大きさの為、誤飲をしないように注意する必要がある。</li><li>・ この活動以外にも、同じマークを探す神経衰弱や、食べ物のイラストを貼って名前当て、並べて遊ぶ等、いろいろな活用の仕方ができる。</li></ul>
保管場所 又は所有者	本校 小学部



## 【教材・教具】 自立活動

教科・領域	自立活動（個別学習：国語、算数）
名称	国語①「文字カードのマッチング」、算数②「絵カードのマッチング」
写真 使用方法	<p>【ねらい】</p> <p>① 文字の形の違いを見分け、マッチングさせる。        ※ 貼る際に指導者が文字を読み上げるが、対象児童には音声と文字のマッチングは求めない。        ※ 興味関心を持って取り組めるように、文字カードの上に好きな絵本に出てくるイラストを貼った。</p> <p>② 同じ絵柄のカードをマッチングさせる。</p> 
対象児童生徒 学年・グループ	小学部 3年生 AB 中グループ
素材・作り方	<p>① イラストをカラーコピーし、裏に厚紙を貼る。        ② カードに磁石を貼り付ける。        ③ 灰色の画用紙でカードを貼る枠を作る。</p>
使ってみて (効果・反省等)	<ul style="list-style-type: none"> <li>今回の、ホワイトボードに貼る形のマッチング課題ができるようになるまでに、様々な方法でマッチング課題に取り組んできたが、（2種類の箱に手本となるカードを見て同じところに入れ分ける、絵カードの上に同じ絵カードを重ねる等）同じであることがわかっていても、その操作が難しかった。そこで、ホワイトボードに貼る形に変え、尚且つ、カードを貼る場所をわかりやすくするために、カードの下に灰色の画用紙を貼った。この工夫を行うだけで、スムーズに課題に取り組めるようになった。</li> <li>①では、文字の形の違いを見分けて貼ることができるようになった。好きな絵本に出てくるひらがなを題材にすることで、興味を持って取り組むことができた。</li> <li>②では、白黒の線図カードを混ぜた5種類程度の絵カードマッチングができるようになり、注視して見分ける力が高まってきた。</li> </ul>
保管場所 又は所有者	本校 小学部




## 【教材・教具】 自立活動

教科・領域	自立活動
名称	弁別課題
写真 使用方法	<p>【ねらい】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>目と手を協応させて色別に入れ分ける。</li><li>指先の力をコントロールし、トングを操作する。</li><li>同じ作業を繰り返し集中して行う。集中力を高める。</li></ul> <p>[自立活動] 環境の把握：認知や行動の手掛かりとなる概念の形成に関すること</p> 
対象児童生徒 学年・グループ	小学部 3年生 AB 中グループ
素材・作り方	<p>① トング、デコレーションボール、容器、箱を準備する。 ② 箱に容器を貼り付ける。 ※ 容器と箱を固定することで、容器がずれることなく安定しやすい。</p>
使ってみて (効果・反省等)	<ul style="list-style-type: none"><li>最初は3色から始め、徐々に弁別する色を増やすようにした。</li><li>トングは幼児用の小さいものを用意し、扱いやすいように配慮した。</li><li>活動には関心を持って取り組むことができ、トングの操作もスムーズになった。</li><li>最初は間違っって入れ分ける様子も見られたが、自分で気づいて再度入れ直したり、「よく見て」と声をかけたりすることで、集中を持続して取り組むことができるようになった。</li><li>5色を弁別して入れ分ける際は、2回程入れ間違える時もあるが、8割程度正確に行えるようになった。</li></ul>
保管場所 又は所有者	本校 小学部



## 【教材・教具】 自立活動

教科・領域	自立活動（みるきくつたえる）
名称	『おおきなかぶ』の「かぶを抜く土台」と「かぶ」
写真 使用方法	
対象児童生徒 学年・グループ	小学部 AB 中グループ
素材・作り方	土台は、段ボールを組み立てて作成した。土なので、茶色の絵の具を塗る。大きさはそれを使用する子どもによる。 かぶは、小さいFBを伸縮性のある布で覆い緑のフェルトで葉をつけた。かぶ本体と葉が離れないようにしっかり留める。土台に開けた穴にピッタリ入るくらいにボールに空気を入れる。
使ってみて (効果・反省等)	本グループの児童には、重さや布の厚さなど引き抜くにはちょうど良いかぶであった。 また、穴から抜けそうで抜けない感じを味わうためにも、土台の深さも適当であった。
保管場所 又は所有者	本校 小学部



## 【教材・教具】 せいかつ

教科・領域	せいかつ
名称	『どうぶつ えんにち』の縁日での品物づくり
写真 使用方法	
対象児童生徒 学年・グループ	小学部 AB 中グループ
素材・作り方	<p>パネルシアター『どうぶつえんにち』を作成し、そこで縁日ごっこの授業を行った。子どもたちが一部を作成し、その後こちらが完成させた。</p> <p>「りんごあめ」は、新聞紙を丸め、赤いセロファンで包むところまでを子どもたちが行った。</p> <p>「やきそば」では、茶色の毛糸を適当な長さに切っておき、プラスチックの容器に入れることを子どもたちが行った。</p> <p>「綿菓子」は、透明の包装紙に綿を入れ、割り箸をさしてこちらが作成した。ほかに、焼きとうもろこしを作成した。</p>
使ってみて (効果・反省等)	<p>いろいろな素材の感触を楽しみながらの授業になった。</p> <p>また、完成したものを使って、お店屋さんごっこもできた。</p> <p>外出できない時期に合わせて、少しでも楽しく買い物ごっこができてよかった。</p>





## 【教材・教具】 図画工作

教科・領域	図画工作
名称	ローラー
写真 使用方法	   <p>握ることが難しい児童も肘からの動きや腕の動きだけでローラーを使用し、描くことができる。支柱のないローラーも握って前後に動かすことで、波線や格子状など様々な模様がつく。模様の違いも楽しむことができる。</p>
対象児童生徒 学年・グループ	小学部 5, 6 年 AB 高グループ
素材・作り方	100 円均一ショップのローラーの先に、紐等を斜めや波状に巻き瞬間接着剤で接着する。  ローラーの持ち手部分に接着剤を付けた丸い木を差し込む。持ち手と反対側を削り、筒を半分に切ったものに付ける。筒にマジックテープや紐をつけることで、太さの調整ができるようにする。
使ってみて (効果・反省等)	普通のローラーを使う児童は、集中して色塗りを取り組むことができた。また、握ることが難しい児童、握ってもすぐ離してしまう児童にも、支えのついたローラーを使用することで、肘から下のみの動きで色塗りをすることができ、握る練習にもなった。
保管場所 又は所有者	本校 小学部



## 【教材・教具】 図画工作

教科・領域	図画工作
名称	ローラーの達人
写真 使用方法	 <p>手先のコントロールが難しい子どもが簡単な力で動かして描くことができる。また、ローラーを転がすとぼこぼこ、ガタガタなど様々な感触を手に感じながら楽しむことができる。</p>
対象児童生徒 学年・グループ	手先のコントロールが難しい児童生徒
素材・作り方	<ul style="list-style-type: none"><li>市販品のペンキ用のペイントローラーに市販品の手芸用の毛球や紐をグルーガンで付ける。</li><li>巻き段ボールやエアパッキンをローラーに両面テープで貼る。</li></ul>
使ってみて (効果・反省等)	簡単に楽しく模様が描けるので、手先が器用な児童たちも大きな模造紙いっぱいに手を動かし、ローラーを転がして模様を描いていた。
保管場所 又は所有者	本校 小学部



## 【教材・教具】国語

教科・領域	国語
名称	拗音カード
写真 使用方法	
対象児童生徒 学年・グループ	小学部 4, 5 年 C 高グループ
素材・作り方	薄いスポンジシートの裏にマグネットシートを貼り、イラストや文字を表側に貼る。スポンジシートで少し厚みを出すことで、麻痺のある児童でもカードの操作を行いやすくした。音の数を意識するため、拗音は一文字として一枚のカードに記入し、手拍子で音の数を確認し、その後カードの数と比べた。最初は音の数が少なく、身近なもので、長音や促音を含まない単語から練習を始め、慣れてきたらそれらを含む単語も扱った。
使ってみて (効果・反省等)	お茶のイラストでは、「お」「ちゃ」「ちゅ」「ちょ」とカードを渡し、正しいものを選び、イラストの下に並べるようにした。構音障害があるためか、聞いた音も正しく認識しづらい場合もあり、カードと音を照らして合わせてゆっくり取り組み、音の数を意識して小さく書くことに気づいたり、「や」「ゆ」「よ」の音の違いを意識できたりするようになった。
保管場所 又は所有者	本校 小学部



## 【教材・教具】 自立活動

教科・領域	自立活動
名称	箱椅子、箱机
写真 使用方法	 <p>後方より支えられる箱椅子と、箱椅子に座りながら使用できる机</p>
対象児童生徒 学年・グループ	小学部 他
素材・作り方	12mm のコンパネで骨材をつくり、色画用紙、フィルムシールにて仕上げる。
使ってみて (効果・反省等)	机上にキーボードを置いて、指導者が後方より児童の手を持って演奏させてみる。(OT 的な指導) 後方からの支援・指導になるので、1人補助で後方から支えてもらえれば前方からの指導ができる。
保管場所 又は所有者	本校 小学部



## 【教材・教具】 自立活動



教科・領域	自立活動（みるきく）
名称	アクションカメラの活用
写真 使用方法	 <p>絵本の内容と同じ形のパンが学校に隠れているので、代表の生徒が探しに行く。アクションカメラを装着し、生徒が探しているところ、見ているところを、待機している生徒が画面越しに見る。臨場感があり、友だちの視線の動きをみることができる。また、視線の中に目的物がないか、待機中の生徒も探すことができる。</p>
対象児童生徒 学年・グループ	中学部 DE グループ
素材・作り方	アクションカメラ、プレゼンター、タブレット端末、絵本、プレゼンテーションソフト、音源
使ってみて (効果・反省等)	座位保持等に固定する分には問題ないが、独歩の生徒に装着するうえで、帽子に装着して被ると、重みで帽子が安定しないことがあった。装着する際は安定するようにしっかり着ける必要がある。 生徒の目線が画面越しに見ることができるのは、普段どこに視線が行くのかわかるので、生徒の気になるものや目につきやすいものがよくわかった。
保管場所 又は所有者	本校 情報教育部





## 【教材・教具】 自立活動



教科・領域	自立活動（みる・きく）
名称	参加型電子絵本
写真 使用方法	  <p>絵本の内容をプレゼンテーションソフトに貼り、セリフのアフレコをし、実際にボタンを押す箱を用意した（上記写真）。ボタンを押すことで、絵本の物語が進み、画面が変化の様子を見て、生徒がボタンを押すと何かが起こるといふ因果関係を覚え、起きる事象の予測することができ、画面を注視する。また、箱を振ったり、息をふきかけたりと、物語に沿って実際に体験することができる。</p>
対象児童生徒 学年・グループ	中学部 DE グループ
素材・作り方	絵本、プレゼンテーションソフト、音源、段ボール、色画用紙
使ってみて (効果・反省等)	箱についているボタンを押すタイミングで、教師がプレゼンターを動かし、音を鳴らし、画面に映る絵本も連動して動くことで、生徒の注目をひくことができた。また、押してみたくなるボタンの大きさや形にしていることから、箱を近づけると、ボタンに手を伸ばす生徒が多くみられた。ボタンを押すことで、アクションがあるので、期待して画面に注視することができていた。
保管場所 又は所有者	本校 中学部



# 【教材・教具】 自立活動・美術



教科・領域	自立活動、美術
名称	スイッチトイ等（スイッチ装置用インターフェイス増設）
写真 使用方法	 <p>①電動水鉄砲      ②パトライト      ③マウス（PC用）</p>  <p>生徒が操作しやすいスイッチを繋げて操作する。</p>
対象児童生徒 学年・グループ	中学部 DE グループ
素材・作り方	<p>スイッチ操作できるように分解・改造し、各種スイッチを繋げることで端子（モノラルミニ端子）を増設する。</p>  <p>必要な物：半田ごて、半田線、モノラルミニ端子、ケーブル、各種工具</p>
使ってみて (効果・反省等)	<p>スイッチで操作することにより光ったり、水が出たりと、子どもたちの興味関心に沿った教材を用意したことで、スイッチ操作による因果関係の理解が早まったと思われる。</p> <p>また、スイッチ端子を増設するミニ研修を行ったことで、教員のスキルアップにもつながり、授業等で活用させるケースが増えてきた。</p>
保管場所 又は所有者	本校 中学部



# 【教材・教具】音楽



教科・領域	音楽	
名称	曲あてクイズ「サンサース作曲：動物の謝肉祭」	
写真 使用方法	 <p>電子黒板と PC を連動させる。電子黒板をタッチすることで、正解か不正解かのアニメーションが音付きで実行される。</p>	
対象児童生徒 学年・グループ	中学部 FG グループ	
素材・作り方	<p>プレゼンテーションソフトを使用。 アニメーション機能を活用し、曲の一部を流す。クリックすることにより正解・不正解の画像を表示させるとともに効果音とも連動させる。正解時はその曲が全部流れるページに移動するようハイパーリンクも使用する。また、誤作動防止や触ってほしくない箇所をなくすために、透明のレイヤーを動物の画像の下に入れる。</p>	
使ってみて (効果・反省等)	<p>大きさや性格の異なる動物の 2 択問題にし、正解を導きやすいようにした。予め動物を提示し、どちらのイメージの曲かをイメージさせることで、曲にも集中して耳を傾けていた。また、即時反応が得られるため、生徒がゲーム感覚で楽しんで取り組む姿が見られた。電子黒板上を自分たちで選び操作できることや、アニメーションの即時性等により、生徒たちの集中力が向上し、より主体的な活動につながったと考えられる。</p>	
保管場所 又は所有者	学校情報ネットワーク内 共有フォルダ	



## 【教材・教具】音楽



教科・領域	音楽
名称	ボイスメモアプリを活用したサウンドクイズ作り
写真 使用方法	 <p>iPad に標準で入っている録音アプリ「ボイスメモ」を活用して生徒達に色々な身近な音、変わった音などを録音させる。ボタン一つで録音でき、削除や名前を付けることも容易にできる。音を録音してきたら生徒が出題者となり「何の音でしょう」と出題。</p>
対象児童生徒 学年・グループ	中学部 FG グループ
素材・作り方	Apple 社 iPad の標準アプリ 録音ボタンを押すだけで録音。停止ボタンで音声ファイル化される。不要な無音部分なども簡単に編集することができる。
使ってみて (効果・反省等)	生徒たちが様々な音に対して興味をもち、積極的に録音する姿が見られた。休憩中などに無断で会話などを録音している事があった。録音して良いかを相手に確認する指導を最初にする必要があった。
保管場所 又は所有者	GIGA スクール構想 一人一台端末



## 【教材・教具】音楽



教科・領域	音楽	
名称	ポチポチ版「夜に駆ける」	
写真 使用方法	 <p>楽譜が読めない生徒の為のアニメーションによる映像楽譜。大阪音楽大学の園田先生が開発されたポチポチ版を中津支援用に新しい曲で作りました。音楽に合わせてドラムセットの叩く場所が画面に表示されていくのでそれに合わせてドラムを演奏します。</p>  	<p>楽譜が読めない生徒の為のアニメーションによる映像楽譜。大阪音楽大学の園田先生が開発されたポチポチ版を中津支援用に新しい曲で作りました。音楽に合わせてドラムセットの叩く場所が画面に表示されていくのでそれに合わせてドラムを演奏します。</p>
対象児童生徒 学年・グループ	中学部 FGグループ	
素材・作り方	<ol style="list-style-type: none"> <li>① 原曲のままでは難しいので生徒用にアレンジする。</li> <li>② Excel でスライド用の画像を作る（一小節あたり約 8 枚、音符が細かい場合はさらに増える）背景透明化したドラムイラストなどをライン上に貼っていく。</li> <li>③ 動画編集ソフト（Davinci Resolve 無料版を使用）でタイムライン上の波形を見ながらスライドを音楽に合わせてアニメーションするように編集する。</li> </ol> <p>mp4 ファイル等書き出す。タブレット・DVD などに入れてモニターに映して使用。</p>	
使ってみて (効果・反省等)	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 楽譜を読むことが難しい生徒たちが画面の表示を追いかけながら音楽に合わせてドラムを叩くことができた。金曜日に設定している授業だが、月曜日から「ドラムやる?」「ぼく速いやつたたけるようになった」など楽しみにする様子が伺えた。</li> <li>• 反省としては、速いと遅いの 2 バージョンを用意したが、マスターするのが速い G グループの生徒に対してはもう 1 段階難しい編曲をしたバージョンを用意しても良かった。</li> </ul>	
保管場所 又は所有者	本校 音楽科	





## 【教材・教具】音楽




教科・領域	音楽
名称	ぼちぼち版 和太鼓 ver「おまつりマンボ」
写真 使用方法	 <p>ドラム練習用に大阪音楽大学の園田先生が開発された映像楽譜「ポチポチ版」を太鼓バージョンで作ってみました。楽譜が読むことが難しい、聴覚だけでは覚えきれない生徒に向けた視覚支援教材です。音楽に合わせて叩く場所が拡大表示されるので見ながら叩きます。</p>
対象児童生徒 学年・グループ	中学部 FG グループ
素材・作り方	<ol style="list-style-type: none"> <li>① 原曲おまつりマンボには太鼓の音は入っていないので太鼓のパートを編曲する。</li> <li>② DAW ソフト（Ableton live を使用）などで音源に太鼓の音を加える。</li> <li>③ Excel でアニメーション用のスライド画像を作成する。（一小節 8 枚～、太鼓乱打などでは枚数が増える）。背景透明化した太鼓のイラストをライン上に貼っていく。ドラムは 4 段だったが太鼓バージョンでは 1 段楽譜にした。叩き方は色分けすることで示した。赤が「ドン」青が「カッ」。</li> <li>④ 動画編集ソフト（Davinci Resolve 無料版を使用）でタイムライン上の波形を見ながらスライドを音楽に合わせてアニメーションするように編集する。</li> <li>⑤ mp4 ファイルなどに書き出す。タブレット端末・DVD などに入れてモニターに映して使用。</li> </ol>
使ってみて (効果・反省等)	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 楽譜を読むことが難しい生徒たちが画面の表示を追いかけながら音楽に合わせて太鼓を叩くことができた。二学期明け、すぐの中津まつりで練習時間は少なかったが映像楽譜の効果で曲を覚えるのが非常に速く練習も楽しんでいる様子だった。</li> <li>• 反省としては、速いと遅いの 2 バージョンを用意したが、マスターするのが速い G グループの生徒に対してはもう 1 段階難しい編曲をしたバージョンを用意しても良かった。</li> </ul>
保管場所 又は所有者	本校 音楽科



## 【教材・教具】外国語（英語）




教科・領域	外国語（英語）
名称	Google Forms（Google Workspace for Education を活用）
写真 使用方法	 <p>Forms は、「クイズ」と「フォーム」の作成ができ、「クイズ」を利用して問題を作成することができる。</p> <p>「クイズ」で使える問題形式は、「単一選択式」「複数選択式」「ランキング形式」「日付回答式」「短文記述式」「長文記述式」などである。今回は、「単一選択肢」と「短文記述式」を使用して問題を作成した。</p> <p>回答者が解答用紙を送信すると、即座に採点され解説コメントと共にフィードバックされるという自動採点機能がある。回答者から寄せられた回答は、すぐに集計・分析され、出題者（指導者）は問題ごとにグラフで表示された分析結果を確認することができ、次の学習内容のためこれらの分析結果を参考にすることもできる。端末操作可能な生徒であれば、誰にでも使用が可能である。</p>
対象児童生徒 学年・グループ	中学部 FG グループ
素材・作り方	Microsoft Forms
使ってみて (効果・反省等)	<p>「GIGA スクール構想」により 1 人 1 台端末と、高速大容量の通信ネットワークが一体的に整備されたのを受け、中学部 FG グループでは、個々の端末の操作方法と使い方をしっかり踏まえる指導を進めた。</p> <p>基本的な操作ができた段階で「Google Classroom」を活用した授業を導入した。生徒はタブレットを使った授業に興味関心が深く、回を重ねるごとに操作手順も早くなった。解答後すぐにフィードバックできる点も学習効果に繋がった。授業以外の時間にも自主的に問題に取り組み、学習内容の定着や集中力も向上した。今後は家庭学習での活用も期待できると考える。</p>
保管場所 又は所有者	GIGA スクール構想 一人一台端末




## 【教材・教具】 自立活動



教科・領域	自立活動 等
名称	シンプルテクノロジー
写真 使用方法	<p><b>BD アダプター</b> おもちゃの電池ボックスに差し込むことで、外部スイッチの利用を可能にする。</p> <p><b>ひもスイッチ</b> BD アダプター等に接続して使う。ひもを引くことでスイッチの ON/OFF ができる。</p> 
対象児童生徒 学年・グループ	<p>全学年の重度重複肢体不自由児を対象とする。</p> <p>グループは小 AB、中高 DE を想定している。</p>
素材・作り方	<p><b>BD アダプター</b>            素材：両面基盤もしくは銅箔、ホッチキスの針、2軸並行銅線、3.5mm 凹モノラルジャック            作り方：両面基盤もしくはラミネートフィルムの端材に銅箔を張り、接点とする。両面基盤、銅箔がない場合は、ホッチキスの針を多数打ち接点にしても良い。接点となる両面基盤等の両面に銅線をはんだ付けする。銅線の片側には 3.5mm 凹モノラルジャックをはんだ付けする。</p> <p><b>ひもスイッチ</b>            素材：2軸並行銅線、3.5mm 凸モノラルジャック、タッパ容器、オムロンマイクロスイッチ ss-5 GL2、ゴムひも、テグス、2.5mm ねじ・ナット            作り方：タッパに 3.5mm の穴 2 か所とねじ用の 2.5mm の穴を 2 か所開ける。銅線の片側に凸モノラルジャックをはんだ付けする。反対側をタッパ用の中に通し、マイクロスイッチの COM (コモン) と NO (ノーマルオープン) と刻印されている端子にはんだづけをする。NC (ノーマルクローズ) の端子は使わない。マイクロスイッチの羽の車輪の部分にテグスを取り付け、タッパの穴を通したゴムひもと結ぶ。マイクロスイッチをねじとナットでタッパに固定する。ゴムひもを引いた時にマイクロスイッチの端子が通電するよう取付位置を工夫すること。</p>
使ってみて (効果・反省等)	<p><b>BD アダプター</b> 乾電池を使用するおもちゃで、おもちゃのスイッチを入れれば通電するものであれば使用可能である。自分の手足の動きで外界の物を操作できることを知らなかった児童生徒が、おもちゃを自分の意志で動かせるということが、シンプルテクノロジーの重要なところである。</p> <p><b>ひもスイッチ</b> 押しスイッチがうまく押せないが随意で腕や足を縮めることができる児童生徒に使用する。長時間引っ張り続けることが難しい場合は、ラッチ&amp;タイマーを併用することで、短い通電時間であっても任意の時間、通電させることができる。事例としては dondoniko にひもスイッチとラッチ&amp;タイマーを併用し、一度ひもを引けば 15 秒回転したり前に進んだりするようにすることで、dondoniko を操作することができた。</p> <p>モーターの駆動により割り箸を上下、もしくはワイパー状に動かすフリバッシャーを別途作成すれば、リモコンでテレビの ch を変えたりカメラのシャッターを押すことも可能になるので、次回はフリバッシャーの作成を行いたい。</p>





## 【教材・教具】 自立活動

教科・領域	自立活動、各教科の学習
名称	足起置き台
写真 使用方法	 <p>範囲と癖を見て設計し、段ボール上に図を描いて、スチールメジャーやカッターナイフで折り目を調整した。生徒の体重で壊れないように中にハニカム型の柱を詰め合わせて補強し保っている。</p>
対象児童生徒 学年・グループ	中学部 1年 FGグループ
素材・作り方	段ボール
使ってみて (効果・反省等)	<p>机の鉄柱に足を引っかけたり、それを避けて足を曲げたりする事は無くなった。</p> <p>授業中に腰を伸ばし脚を突き出して悪い姿勢をとる癖が入学前から身に付いていたので、矯正目的で作った。</p> <p>今でも姿勢を崩したい時に、足を大きく開いたり、遙か前まで足を延ばして足置き台を避けようとする事もあるが、その姿勢が辛いので頻度は僅かである。</p> <p>生徒の発作の関係上、ほぼ後ろに教員が付いているので、背筋の曲がりや、その都度合図を送って正しているため、足置き台のみの姿勢矯正の効果は評価しにくい。</p>
保管場所 又は所有者	本校 中学部



## 【教材・教具】外国語（英語）




教科・領域	外国語（英語）
名称	疑問視 Quiz
写真 使用方法	  <p>疑問詞(5W1H)を視覚的にわかりやすく説明するためにスライドを使用しながらゲーム感覚で学習を展開する補助教材として作成した。簡単な問題から難しい問題まで、それぞれ点数を設定してあり、正解するとその点数をゲットできるように設定している。(全 40 問)</p>
対象児童生徒 学年・グループ	中学部及び高等部
素材・作り方	プレゼンテーションソフトで作成したので、PCまたはタブレット端末にデータを移動し、大型テレビに映しながら授業を展開する。
使ってみて (効果・反省等)	中学部及び高等部で使用したい先生がいらしたら提供させていただきたい。その際、効果等を踏まえて問題を作りかえるなど改善をしたい
保管場所 又は所有者	本校 中学部







## 【教材・教具】国語・自立活動



教科・領域	国語、自立活動
名称	短作文で気持ちを表現する活動
写真 使用方法	 <p>タブレット端末のトーキングエイドアプリを使用。      前の日の出来事や感想等の身近な題材を用いて、助詞を使った短作文を作成し、発表する。      ※ 事前に「多層指導モデルMIM」（濁音・促音・拗長音等の理解度チェック検査）を用いてアセスメントを行い、客観的に実態把握を行った。</p>
対象児童生徒 学年・グループ	高等部 Fグループ（3人）
素材・作り方	タブレット端末にトーキングエイドアプリをダウンロードして使用
使ってみて (効果・反省等)	<p>50音から選択して指でタップするだけで、文を作ることができ、選択する際に音声で確認できるため、スムーズに入力できる。      拗音・促音も表示されており、間違えても訂正しやすい。      吃音がある生徒も、読み上げを楽しみながら学習できる。      友だちが入院したことを聞き「しんぱいやなあ」と言うなど、思いを表す言葉が出やすくなった。</p>
保管場所 又は所有者	本校 高等部




## 【教材・教具】国語・自立活動

教科・領域	国語、自立活動
名称	書字（出来事や気持ちを日記として記入して表現する活動）
写真 使用方法	<p>↓4枚重ねる</p>  <p>1画ずつ記された透明カードを1枚ずつ重ねていき、1文字の形に再構成する。プリントに文字を記入する際には、筆記時の刺激が分かりやすいように、紙やすりを下敷きとして使用する。</p>
対象児童生徒 学年・グループ	高等部 Fグループ（3人）
素材・作り方	プリントアウトした字を1画ずつ切り、ラミネートしてカードを作成
使ってみて (効果・反省等)	<p>1画がどこまでなのかが明確に分かり、1画ずつ分けて書けるようになった。「そ」の角も、とがらせて書けるようになった。</p> <p>5月 → 2月      4月 → 2月      4月 → 2月</p> 
保管場所 又は所有者	本校 高等部




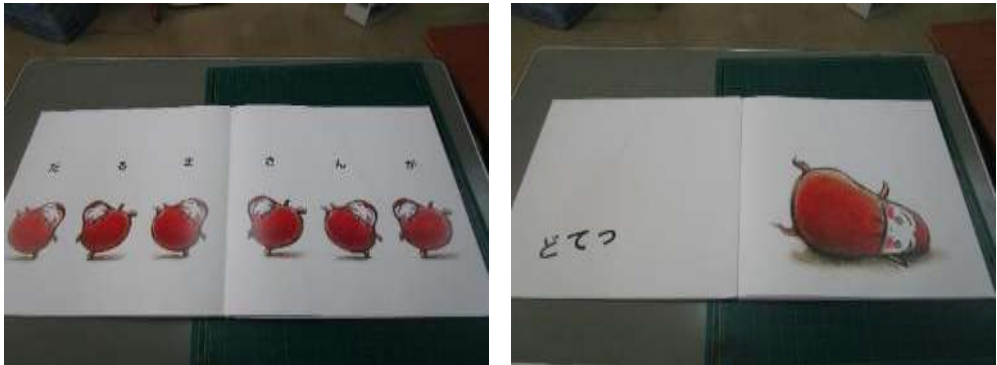
## 【教材・教具】国語・自立活動



教科・領域	国語、自立活動
名称	音読
写真 使用方法	 <p>電子絵本を生徒にスイッチで操作させて、主体的に学習させる。</p>
対象児童生徒 学年・グループ	高等部 Fグループ（3人）
素材・作り方	<ul style="list-style-type: none"><li>• 絵本をスキャナー等で画像として保存。</li><li>• それらの画像データをプレゼンテーションソフトに取り込んで作成。</li></ul>
使ってみて (効果・反省等)	<ul style="list-style-type: none"><li>• 自分のペースで学習できるため、楽しみながら主体的に学習する姿が見られた。</li><li>• 音声は自動でなく、音読後にクリックし読み上げるのがよい。</li></ul>
保管場所 又は所有者	本校 高等部



## 【教材・教具】 自立活動

教科・領域	自立活動（みるきくつたえる）
名称	『だるまさんがころんだ』等 だるまさんシリーズ
写真 使用方法	 
対象児童生徒 学年・グループ	高等部 DE グループ
素材・作り方	段ボール
使ってみて (効果・反省等)	1 語文から 2 語文に移行するには格助詞の使用が必要。 そのためには「だるまさんがころんだ」シリーズが適切である。 その際絵本の世界を立体的に体験するために教材を作成した。
保管場所 又は所有者	本校 高等部




## 【教材・教具】美術

教科・領域	美術
名称	冷たいクリーム
写真 使用方法	
対象児童生徒 学年・グループ	高等部 DEグループ
素材・作り方	<ol style="list-style-type: none"><li>① シェービングクリームを一晩凍らせる</li><li>② 触ると熱で溶ける特徴を活かし、絵の具を混ぜながら冷たい感触を味わう</li><li>③ 絵の具を混ぜた冷たいクリームを画用紙に取り、のぼしながら描く</li></ol>
使ってみて (効果・反省等)	冷たいクリームは触ると形状が変わるので、生徒たちは不思議そうな表情を浮かべていた。また、柔らかくふわふわな感触に触りながら凝視する生徒が多く、興味を持っている様子を見ることができた。画用紙にクリームを取り出し描く活動では、生徒の手の軌跡が残り、それぞれの個性を活かした作品ができあがった。
保管場所 又は所有者	美術・技術室



## 【教材・教具】 家庭

教科・領域	家庭（住生活分野）「趣味や好きなことを増やそう」 ～いろいろやってみようプロジェクト①～
名称	キャンドルアート（ツリー）に挑戦！
写真 使用方法	 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 灯すキャンドルとしても使用できるが、主に観賞用として使用。</li> <li>・ 観賞用であれば、お気に入りの皿やガラス瓶に入れて飾るのもよい。</li> </ul>
対象児童生徒 学年・グループ	高等部 Fグループ3人、Gグループ3人
素材・作り方	<p><b>材料</b> ろうそく（仏壇用の物でも可）、ろうそく用塗料（クレヨンでも可）、アロマオイル、ろうそくの芯（タコ糸や麻ひもでも可）、おかずカップ（大きさの違う物を3種類程度）、ろうを溶かす用の鍋（IH対応）、卓上電磁調理器、ドライヤー、きり</p> <p><b>作り方</b> ろうを鍋で溶かし、好きな色を付ける。おかずカップ（木の幹1個、葉の部分3個）に流し入れる。 ※ クリスマスバージョンにするならば、星の形のシリコン製おかずカップも準備するとよい。 固まったならばドライヤーで温めたきりで中央に穴を開けて芯を通す。</p>
使ってみて (効果・反省等)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 100円均一ショップでほとんどの物が揃うので扱いやすい。</li> <li>・ ろう（パラフィン）は60度程度で溶け、比較的高温ではないが火傷など注意が必要。</li> <li>・ 様々な形のお弁当用のおかずカップやシリコンケースを使用すると様々なお洒落なキャンドルが作れる。</li> <li>・ 星を外すとツリーキャンドルになり、通年で使用できる教材である。</li> </ul>





## 【教材・教具】美術

<p>教科・領域</p>	<p>家庭（住生活分野）「趣味や好きなことを増やそう」 ～いろいろやってみようプロジェクト②～</p>
<p>名称</p>	<p>カフェエプロン製作 ～ ラテアートに挑戦！</p>
<p>写真 使用方法</p>	
<p>対象児童生徒 学年・グループ</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ カフェエプロン……高等部 F グループ 3 人、高等部 G グループ 3 人</li> <li>・ ラテアート ……高等部 G グループ 3 人</li> </ul>
<p>素材・作り方</p>	<p><b>カフェエプロン製作</b>          (材 料) 黒の綿生地 45cm × 90cm (エプロン本体) 1 枚          20cm × 45cm (エプロンポケット) 1 枚          黒の腰ひも 2cm × 1m (エプロン用) 2 本          黒の綿生地 (三角巾用)          (作り方) 端部分にアイロンをかけ、ミシン (直線縫いのみ) で縫う。(動画等を参考に)</p> <p><b>ラテアートに挑戦</b>          (材 料) インスタントコーヒー (エスプレッソが好ましい)、ココア、牛乳、チョコレートシロップ、クリーマー、耐熱容器、つまようじ、コーヒーカップ          (作り方) 耐熱容器で牛乳を温める。クリーマーで牛乳 200ml を 1 分間泡立てる。あらかじめコーヒーとココア少量をお湯で溶き、泡立てた牛乳を入れる (※入れ方にコツあり) チョコシロップで模様を付けたり、つまようじで絵を描いたりして完成。</p>
<p>使ってみて (効果・反省等)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ カフェエプロン製作は校内実習でコーヒー販売に使用することもあり、意気揚々と積極的に取り組む生徒がいた。また、完成したエプロンは卒業後も使用したいという生徒もいた。</li> <li>・ ラテアートは「カフェエプロン製作」との関連性もあり実施してみたが、みんな楽し気に挑戦していた。カフェラテにチョコレートシロップをかけてつまようじで模様を描くだけでもアートになるので絵を描くことが苦手な生徒にはおすすめである。</li> <li>・ 校内実習の販売学習で普通のコーヒーを売った生徒たちだったので、「これは売れるかも！」と自信満々な生徒もいて、とにかく楽しそうに取り組んでいた。</li> <li>・ 職業・進路学習との教科横断的学習の面もあり、さらにエプロンの管理・洗濯など応用的で連続性のある学習・実習内容である。また、生徒の反応もかなり良い教材だと感じた。</li> </ul>




## 【教材・教具】 自立活動



教科・領域	自立活動
名称	手話学習
写真 使用方法	
対象児童生徒 学年・グループ	高等部 Gグループ（3人）
素材・作り方	<ul style="list-style-type: none"> <li>自己紹介・挨拶などの日常会話 16 項目、『365 日の紙飛行機』、『ピリープ』以上 3 項目の手話を、プレゼンテーションソフトで作成した。</li> <li>上記の 3 項目の手話を、プレゼンテーションソフトからプリントアウトし、ラミネート加工して模造紙に貼った。</li> </ul>
使ってみて (効果・反省等)	<ul style="list-style-type: none"> <li>手話の手の形と動きには意味があることを、一つひとつプレゼンテーションソフトで作成し、電子黒板で大きく示すことができた。生徒にも分かりやすかったと思われる。</li> <li>パワーポイントからプリントアウトし、ラミネート加工して模造紙に貼ることで、全体の流れをつかみながら練習できた。</li> </ul>
保管場所 又は所有者	本校 高等部



## 【教材・教具】特別活動

教科・領域	特別活動（校内での宿泊学習）
名称	キャンドル作り
写真 使用方法	 <p>今年度はコロナ禍の中、校内で宿泊学習を実施し、防災学習やレクリエーション活動を行った。キャンドルを1日目の午後に作り、その夜の「お化け屋敷体験」や「キャンドルファイヤー」に使用した。キャンドルの灯火を囲み、共有体験を通して仲間意識を深めることができた。</p>
対象児童生徒 学年・グループ	高等部 2年生
素材・作り方	<p><b>材料</b> ろうそく、紙コップ、割りばし、たこ糸、カップ、クレヨン、カッター、はさみ、耐熱容器</p> <p><b>作り方</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>ろうそく（仏壇用の短くて細いもの）を耐熱容器に入れ、電子レンジで溶かす。その間に、好きな色を選んで、クレヨンでイメージ図を描く。</li><li>カッターで削ったクレヨンと溶かしたろうそくを紙コップに入れ、割りばしで混ぜる。※やけどに注意する。</li><li>カップに短く切ったたこ糸と割りばしをセットし、流し入れる。</li><li>1色目が固まったら、2色目を入れる。</li></ul>
使ってみて (効果・反省等)	キャンドルのイメージ図を描くことによって、自分の表したい色合いのイメージをもって創作する楽しさを味わうことができた。ただし、電子レンジでろうそくを溶かすのに時間がかかり、湯せんの作業が必要になったため、安全かつ効率的に活動できるよう工夫する必要がある。
保管場所 又は所有者	本校 高等部





## 【教材・教具】 自立活動

教科・領域	自立活動
名称	The CAT-Kit
写真 使用方法	 <p>発達障がいのある子どもたちの感情トレーニングのために、デンマークで考案されたものです。基礎研修会から始まり、各レベルの研修会が催されています。研修会に参加するには、このテキストが必要になります。</p> <p>感情を分類し、さまざまな感情語と表情の関係や、感情の温度計などの学習が可能です。外国のテキストのため、日本の表現としっかりこない部分もあります。</p>
対象児童生徒 学年・グループ	対象年齢 発達年齢 7 歳以上（実年齢とは異なります。） 感情のコントロールを学習する児童・生徒
素材・作り方	The CAT-Kit - アスペルガー症候群の人の感情コントロールの指導教材 トニー・アトウッド博士開発
使ってみて (効果・反省等)	<p>笑顔の表情を選び、「ルンルン」と生徒自らが感情の名前をつけることができました。</p> <p>怒りの表情を選んだ生徒に、支援者が「イライラの気持ちなんだね」と感情名をつけると、「〇〇くん、いま、イライラやねん」と気持ちを伝えることができました。</p> <p>ある生徒が「悲しい」を選択すると、それを見た他の生徒も「〇〇くんも悲しくなった」と気持ちを言葉で表現し、相手の気持ちによりそった様子が見られました。</p> <p>感情という見えない心の動きを「見える化」して、互いの心の様子を想像することができました。</p>
保管場所 又は所有者	本校蔵書（図書ホール）



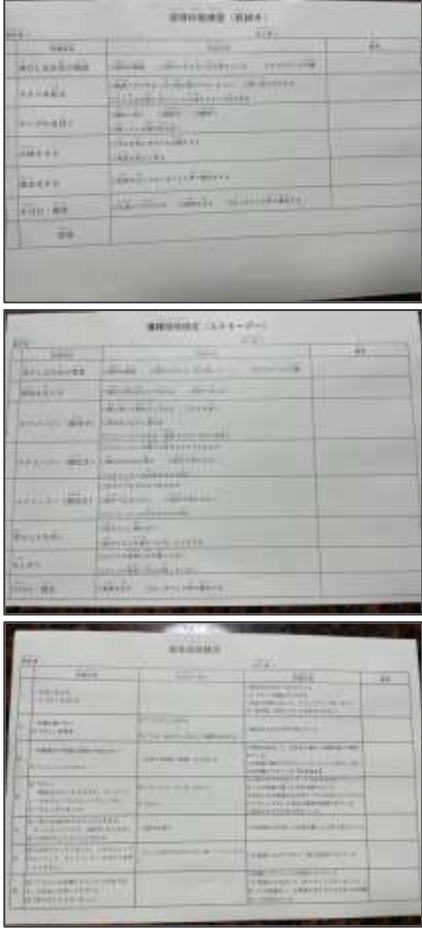
## 【教材・教具】 自立活動

教科・領域	自立活動（集団活動）
名称	ジェンガ
写真 使用方法	 
対象児童生徒 学年・グループ	高等部 DEグループ
素材・作り方	牛乳パックの上部と底に毛糸をつけ、中に鈴を入れる。 形が崩れるのを防ぐため内側に割り箸を張り付けて閉じ、色画用紙を巻き付ける。 最後にテープで補強する。
使ってみて (効果・反省等)	ジェンガをするうえで、動かすと音が鳴る色分けされたものを使用することでより興味を持ち楽しむことができるかを試したいと思い用意した。 使用したところ、前に並べ見せたときに普段のジェンガよりも興味を持って見る生徒もいた。抜くときに「どの色を抜く？」と言葉かけすると手を宙にさまよわせ考え、自分で選び抜くことができた生徒もいた。 また、抜いた後自分で振って鈴の音を聞きながら笑い声を上げ楽しむ生徒もいた。 今後は、色分けを利用したルールでやってみたり鳴る音に違いを持たせてみたりなど、生徒の実態に合わせた使用方法を考えながら使用していきたい。
保管場所 又は所有者	本校 高等部





## 【教材・教具】職業

教科・領域	職業
名称	中津検定
写真 使用方法	 <div style="border: 1px solid green; padding: 5px; margin-top: 5px;"> <p><b>机拭き</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 雑巾の絞り方を学ぶ。</li> <li>・ 机の拭き方の見本を見て、何度も練習をする。</li> <li>・ 点検を必ずすることを意識する。</li> <li>・ 報告をすることを忘れない。</li> </ul> </div> <div style="border: 1px solid green; padding: 5px; margin-top: 5px;"> <p><b>スクイジー</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ スクイジーの使い方を学ぶ。</li> <li>・ スクイジーの刃を使うたびにタオルで拭く。</li> <li>・ 縦拭き、横拭き、扇拭きを忘れない。</li> <li>・ 報告をすることを忘れない。</li> </ul> </div> <div style="border: 1px solid green; padding: 5px; margin-top: 5px;"> <p><b>接客</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 手洗い、消毒、身だしなみ（衛生面）を整えることを意識する。</li> <li>・ 立ち位置や手を前で重ねる姿勢を学ぶ。</li> <li>・ お客様が聞き取りやすい言葉を使う。</li> <li>・ また、お客さまにわかりやすい説明ができるよう</li> <li>・ 何度も練習する。</li> <li>・ 店員間の連絡や報告をすることを忘れない。</li> </ul> </div>
対象児童生徒 学年・グループ	高等部 FGグループ
素材・作り方	パソコン、(生徒間での評価表) 印刷
使ってみて (効果・反省等)	生徒間で検定試験の評価をし合い、お互いに感想を伝え合うことができた。また、評価されることにより、緊張感を持って各項目を注意しながら取り組むことができた。
保管場所 又は所有者	統合 ICT ネットワーク内 セキュリティモード 高等部 > FGグループ > 職業





## 【教材・教具】 職業

教科・領域	職業																																																																
名称	軽作業における校内検定指標																																																																
写真 使用方法	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <table border="1" style="width: 45%;"> <caption>軽作業技能検定（ピッキング3級）</caption> <thead> <tr> <th>№</th> <th>評価項目</th> <th>評価内容</th> <th>スコア</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>取手を取る</td> <td>取手の位置が正しく、取手を取り出すことができる</td> <td><input type="checkbox"/>○ <input type="checkbox"/>△ <input type="checkbox"/>×</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>正確に行う</td> <td>取手の位置が正しく、取手を取り出すことができる</td> <td><input type="checkbox"/>○ <input type="checkbox"/>△ <input type="checkbox"/>×</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>取手を行う</td> <td>取手の位置が正しく、取手を取り出すことができる</td> <td><input type="checkbox"/>○ <input type="checkbox"/>△ <input type="checkbox"/>×</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>丁寧に行う</td> <td>取手の位置が正しく、取手を取り出すことができる</td> <td><input type="checkbox"/>○ <input type="checkbox"/>△ <input type="checkbox"/>×</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>確認を行う</td> <td>取手の位置が正しく、取手を取り出すことができる</td> <td><input type="checkbox"/>○ <input type="checkbox"/>△ <input type="checkbox"/>×</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>報告</td> <td>取手の位置が正しく、取手を取り出すことができる</td> <td><input type="checkbox"/>○ <input type="checkbox"/>△ <input type="checkbox"/>×</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>片付け</td> <td>取手の位置が正しく、取手を取り出すことができる</td> <td><input type="checkbox"/>○ <input type="checkbox"/>△ <input type="checkbox"/>×</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1" style="width: 45%;"> <caption>軽作業技能検定（ピッキング1級）</caption> <thead> <tr> <th>№</th> <th>評価項目</th> <th>評価内容</th> <th>スコア</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>取手を取る</td> <td>取手の位置が正しく、取手を取り出すことができる</td> <td><input type="checkbox"/>○ <input type="checkbox"/>△ <input type="checkbox"/>×</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>正確に行う</td> <td>取手の位置が正しく、取手を取り出すことができる</td> <td><input type="checkbox"/>○ <input type="checkbox"/>△ <input type="checkbox"/>×</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>取手を行う</td> <td>取手の位置が正しく、取手を取り出すことができる</td> <td><input type="checkbox"/>○ <input type="checkbox"/>△ <input type="checkbox"/>×</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>丁寧に行う</td> <td>取手の位置が正しく、取手を取り出すことができる</td> <td><input type="checkbox"/>○ <input type="checkbox"/>△ <input type="checkbox"/>×</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>確認を行う</td> <td>取手の位置が正しく、取手を取り出すことができる</td> <td><input type="checkbox"/>○ <input type="checkbox"/>△ <input type="checkbox"/>×</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>報告</td> <td>取手の位置が正しく、取手を取り出すことができる</td> <td><input type="checkbox"/>○ <input type="checkbox"/>△ <input type="checkbox"/>×</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>片付け</td> <td>取手の位置が正しく、取手を取り出すことができる</td> <td><input type="checkbox"/>○ <input type="checkbox"/>△ <input type="checkbox"/>×</td> </tr> </tbody> </table> </div> <p>上記は高等部 F グループ「職業」において授業で新しく取り組んでいる作業である「ピッキング」の3級及び1級の検定指標である。仕様書に記載された場所から物品を指示された個数取り出す仕事である。</p> <p>検定は生徒一人ずつに手元に棚を用意し、教員が各項目を確認しながら行った。評価はできている場合は○、できていない場合は×、不明な場合は？の欄にチェックをして○なら1点、×なら0点で合計点が8割以上で合格とした。</p> <p>不明欄のチェックが多くなると評価が困難になるため、3つ以上不明欄にチェックが入った場合は評価不可ということにするなど細かい状況も想定する必要があると考えている。</p>	№	評価項目	評価内容	スコア	1	取手を取る	取手の位置が正しく、取手を取り出すことができる	<input type="checkbox"/> ○ <input type="checkbox"/> △ <input type="checkbox"/> ×	2	正確に行う	取手の位置が正しく、取手を取り出すことができる	<input type="checkbox"/> ○ <input type="checkbox"/> △ <input type="checkbox"/> ×	3	取手を行う	取手の位置が正しく、取手を取り出すことができる	<input type="checkbox"/> ○ <input type="checkbox"/> △ <input type="checkbox"/> ×	4	丁寧に行う	取手の位置が正しく、取手を取り出すことができる	<input type="checkbox"/> ○ <input type="checkbox"/> △ <input type="checkbox"/> ×	5	確認を行う	取手の位置が正しく、取手を取り出すことができる	<input type="checkbox"/> ○ <input type="checkbox"/> △ <input type="checkbox"/> ×	6	報告	取手の位置が正しく、取手を取り出すことができる	<input type="checkbox"/> ○ <input type="checkbox"/> △ <input type="checkbox"/> ×	7	片付け	取手の位置が正しく、取手を取り出すことができる	<input type="checkbox"/> ○ <input type="checkbox"/> △ <input type="checkbox"/> ×	№	評価項目	評価内容	スコア	1	取手を取る	取手の位置が正しく、取手を取り出すことができる	<input type="checkbox"/> ○ <input type="checkbox"/> △ <input type="checkbox"/> ×	2	正確に行う	取手の位置が正しく、取手を取り出すことができる	<input type="checkbox"/> ○ <input type="checkbox"/> △ <input type="checkbox"/> ×	3	取手を行う	取手の位置が正しく、取手を取り出すことができる	<input type="checkbox"/> ○ <input type="checkbox"/> △ <input type="checkbox"/> ×	4	丁寧に行う	取手の位置が正しく、取手を取り出すことができる	<input type="checkbox"/> ○ <input type="checkbox"/> △ <input type="checkbox"/> ×	5	確認を行う	取手の位置が正しく、取手を取り出すことができる	<input type="checkbox"/> ○ <input type="checkbox"/> △ <input type="checkbox"/> ×	6	報告	取手の位置が正しく、取手を取り出すことができる	<input type="checkbox"/> ○ <input type="checkbox"/> △ <input type="checkbox"/> ×	7	片付け	取手の位置が正しく、取手を取り出すことができる	<input type="checkbox"/> ○ <input type="checkbox"/> △ <input type="checkbox"/> ×
№	評価項目	評価内容	スコア																																																														
1	取手を取る	取手の位置が正しく、取手を取り出すことができる	<input type="checkbox"/> ○ <input type="checkbox"/> △ <input type="checkbox"/> ×																																																														
2	正確に行う	取手の位置が正しく、取手を取り出すことができる	<input type="checkbox"/> ○ <input type="checkbox"/> △ <input type="checkbox"/> ×																																																														
3	取手を行う	取手の位置が正しく、取手を取り出すことができる	<input type="checkbox"/> ○ <input type="checkbox"/> △ <input type="checkbox"/> ×																																																														
4	丁寧に行う	取手の位置が正しく、取手を取り出すことができる	<input type="checkbox"/> ○ <input type="checkbox"/> △ <input type="checkbox"/> ×																																																														
5	確認を行う	取手の位置が正しく、取手を取り出すことができる	<input type="checkbox"/> ○ <input type="checkbox"/> △ <input type="checkbox"/> ×																																																														
6	報告	取手の位置が正しく、取手を取り出すことができる	<input type="checkbox"/> ○ <input type="checkbox"/> △ <input type="checkbox"/> ×																																																														
7	片付け	取手の位置が正しく、取手を取り出すことができる	<input type="checkbox"/> ○ <input type="checkbox"/> △ <input type="checkbox"/> ×																																																														
№	評価項目	評価内容	スコア																																																														
1	取手を取る	取手の位置が正しく、取手を取り出すことができる	<input type="checkbox"/> ○ <input type="checkbox"/> △ <input type="checkbox"/> ×																																																														
2	正確に行う	取手の位置が正しく、取手を取り出すことができる	<input type="checkbox"/> ○ <input type="checkbox"/> △ <input type="checkbox"/> ×																																																														
3	取手を行う	取手の位置が正しく、取手を取り出すことができる	<input type="checkbox"/> ○ <input type="checkbox"/> △ <input type="checkbox"/> ×																																																														
4	丁寧に行う	取手の位置が正しく、取手を取り出すことができる	<input type="checkbox"/> ○ <input type="checkbox"/> △ <input type="checkbox"/> ×																																																														
5	確認を行う	取手の位置が正しく、取手を取り出すことができる	<input type="checkbox"/> ○ <input type="checkbox"/> △ <input type="checkbox"/> ×																																																														
6	報告	取手の位置が正しく、取手を取り出すことができる	<input type="checkbox"/> ○ <input type="checkbox"/> △ <input type="checkbox"/> ×																																																														
7	片付け	取手の位置が正しく、取手を取り出すことができる	<input type="checkbox"/> ○ <input type="checkbox"/> △ <input type="checkbox"/> ×																																																														
対象児童生徒 学年・グループ	高等部 Fグループ																																																																
素材・作り方	高等部 Fグループの生徒が校外での実習で作業等をする際に、注意もしくは意識して取り組むべきポイントを想定して検定の指標とした。																																																																
使ってみて (効果・反省等)	本検定は生徒にとって理解しやすい項目であり、また、作業の手順等に関する事柄だけでなく、あいさつや作業を行う上での姿勢なども盛り込んでおり、検定の時のみでなく日常の授業から意識し、実践する必要がある。 そのため、職業の授業ではその緊張感を持って授業を行うことができているため、検定を策定した意義は大きいと感じている。																																																																
保管場所 又は所有者	本校 高等部																																																																






## 【教材・教具】 職業

<p>教科・領域</p>	<p>職業</p>
<p>名称</p>	<p>コーヒーの販売マニュアル</p>
<p>写真 使用方法</p>	
<p>対象児童生徒 学年・グループ</p>	<p>高等部 Gグループ</p>
<p>素材・作り方</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• コーヒーメーカー</li> <li>• コーヒー豆、紙コップなど</li> <li>• レジスター</li> </ul>
<p>使ってみて (効果・反省等)</p>	<p>本校のコーヒー販売は、高等支援学校等で行われているような喫茶サービスとは異なり、中津支援学校の生徒が、可能な限り自分たちの手で販売できるように、コンビニエンスストアのセルフ販売のような形式で実施している。</p> <p>販売実習では、生徒は自らお客様に対し丁寧な言葉遣いを心がけ、座学でのビジネスマナー学習の実践の場として、非常に高い学習意欲で取り組むことができた。</p> <p>生徒は5日間の販売実習の最後には、達成感を得ている様子で、販売に対し興味を持ち、中には将来の進路に生かしていきたいと考えている生徒がいた。</p> <p>今後、このマニュアルは、生徒の実態に応じ、変化させていくようにしたい。</p>
<p>保管場所 又は所有者</p>	<p>本校 高等部</p>

# 活動實踐事例



## 感覚と運動の高次化簡易・標準チェックリスト

教科・領域	自立活動
名称	感覚と運動の高次元簡易・標準チェックリスト
写真 使用方法	  
対象児童生徒 学年・グループ	小学部2年生 AB低グループ
素材・作り方	感覚と運動の高次化簡易・標準チェックリスト ～重度視覚障がいを伴う肢体不自由児のアセスメント適応～
使ってみて (効果・反省等)	<p>感覚と運動のつながりにおける発達段階を数値的にみることができ、また指導目標が達成できているか判断の参考となった。</p> <p>対象児童は視覚障がいを併せもつ重度肢体不自由児で発達の初期段階である。視覚においては光覚で、外界に対しての興味の広がり難しい。また、既存の発達検査では項目が多岐にわたり、判断が難しい。そこで、本アセスメントは段階別でシンプルであり、理解の一助けとなった。</p> <p>視覚を用いてのアセスメント項目の部分は児童の行動を観察し、視覚の部分を他で代用したり、段階を踏まえて推測したりした。</p> <p>ステージⅠ 感覚入力水準は既存で評価</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 評価者による変更</li> </ul> <p>ステージⅡ 感覚運動水準</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 特定の面を見分けて叩いて音を出す→音源を探て手を伸ばそうとする行為で評価</li> <li>・ ゆっくり動く球を追視する→口ウソクの火を追視</li> <li>・ 遠いものを見つけて手をのばしてつかむ → 遠い興味のある音源に向かって全身を傾け腕をいっぱいにのばし触ろうとする。</li> </ul> <p>上記3項目は視覚の入力から運動を起こす項目であるが、本児の実態から聴覚入力に置き換えての評価とした。</p> <p>【反省】</p> <p>発達検査では、視覚障がいを考慮したものはなく、視覚を必要とする項目はとばして評価を行うことが多かった。また、明らかに段階が過ぎているものは通過としてきた。だが、超えようとしている段階など一番知りたい部分は判断が難しくやや主観的判断が入りがちとなる。複数での確認は必要である。</p>



## 劇指導

教科・領域	自立活動、国語	
名称	劇「いつまでも ともだち」	
写真 指導方法	<p>劇指導における大きな目的は、子どもたちに「自分で世界を創る」体験をさせることである。この場面ですら、相手はこんなふうに言ってくれた…こう動いてみたら、こんなリアクションが返ってきた…。相手が私の話を聞いてくれている、私を見てくれているというその実感は心を安定させ、自分から世界にはたらきかけていく力になる。どの子どもにとっても「世界の中心は自分なのだ」という実感がもてる瞬間を積み重ね、その集団そのメンバーだけの劇が出来上がる。それは楽しく誇らしい体験である。またその体験を通して、言語とコミュニケーションが育つ。</p> <p>ちなみに「劇」と「劇遊び」は別物である。「劇」は、用意された脚本の台詞を覚え、演出（教員）の指示通りに動くことが求められ、その正しさが評価される活動である。「劇遊び」は、ストーリーにそって、或いは相手の台詞を受けて、その役としてどう話すか、どう行動するか、台詞や動き自体を考える主体性が求められる。ひとりでは難しい子どもが多いので、教員と共にこうかなあといういろいろ試しながら、他の子どもたちの意見も聞きながら創っていく。</p>	
対象児童生徒 学年・グループ	小学部 C高グループ	
指導してみた	<p>りす役のSさんは、教員の劇を見て「ウクレレ弾きたい」とリスに立候補した。役名を自分で決める活動では、「ハートの入った名前がいい」と話し、教員と一緒にらぶりんという名前を考えた。1番目に登場する役で、恥ずかしがりやの本児にはなかなかの重圧であったが、はじめに名前を紹介したほうがいいよね、楽器も弾けるよって聞いてもらおうといいよね、と話をしながら台詞を考えていき、練習を重ねると、大きな声で「らぶりんです！」と自己紹介できるようになった。またウクレレをととても気に入り、劇練習以外の時間にも肩からかけて練習し、指でもピックでもとてもいい音が出せるようになった。（本番を見た担当ナースさんが、本児がウクレレを弾く姿をぜひ保護者に見せたいとおっしゃってくださり、後日写真を撮ったり演奏したりして保護者に届けた。）演奏が好きなおことから、自分で一番気に入って話したセリフは「演奏しよう！」で、友だちのサルが落ち込む場面やお別れが迫る場面などで自発的に「演奏しよう！」と何度も呼び掛けることができた。</p> <p>日頃積極的に挙手をして発言することなかなか難しい、自信がないところもあるSさんだったが、劇創りを通して、自分の思いを言ってもいいんだ、やりたいことをやってもいいんだ、好きなことを思いきり楽しんでいいんだ、そんな思いを感じてくれたように思う。そのことは今後の彼女の生き方に影響していくと思う。劇を通して、関わった友だちや教員との関係が深まり、関わりが増えたことも大きな成果のひとつであった。</p>	



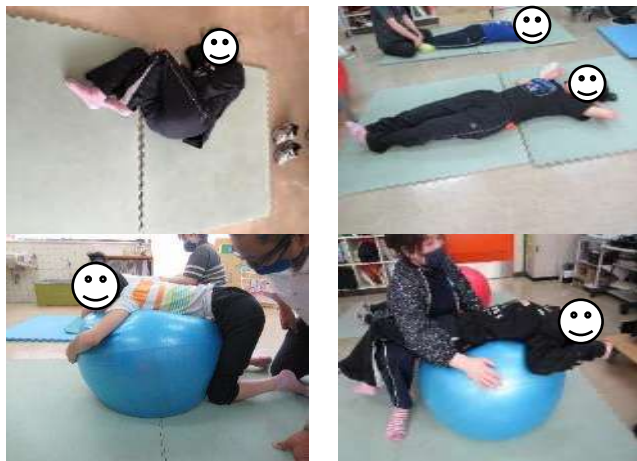


## FBM (ファシリテーション・ボール・メソッド) ①

教科・領域	自立活動 (個別)
名称	ファシリテーション・ボール
写真 使用方法	2 学期  3 学期  
対象児童生徒 学年・グループ	高等部 3 年生 DE グループ
素材・作り方	ファシリテーション・ボール
使ってみて (効果・反省等)	<p>右半身に麻痺がある。学院では床に降りて活動することもあるが、学校では車いすから降りて活動することは少ない。</p> <p>本生徒はマットに降りて臥位姿勢をとったり、体を弛められることに抵抗を感じる。また、動的な活動が多く静的な活動は苦手である。</p> <p>取り組みを始めた当初は、ボールに乗ることもできず、乗ったとしてもすぐに降りてしまうという状態であった。</p> <p>徐々に慣らしていくため、1回の授業で何回もチャレンジしたり、教員が乗って見せたりした。同じ取り組みを重ねると、短時間ではあるがボールに乗れるようになってきた。ボールに乗ると体を大きく動かし、動的な活動を楽しんだ。満足するとすぐに降りるといった日が続いたが、同じ取り組みの中に動的活動後、静的活動を行うことを伝え静的活動にも取り組んだ。回を重ねるうちに、左右1回ずつしかできなかった躯幹ひねりが5回ずつできるようになった。初めは緊張して頭をあげていたが、慣れてくると頭をボールにつけリラックスできるようになった。</p> <p>仰臥位がコンスタントにできるようになってから、伏臥位にも取り組んだ。伏臥位は自分でボールを押し込むことで、股関節を伸ばすことができた。伏臥位では、意識的に右手を前に持ってこようとする動作が見られた。</p> <p>1年間の取り組みを終えて、ボールを本人の前に置いておくと、教員に渡したり、自らボールに乗ろうとする姿が見られるようになった。また、コンスタントに取り組むことができるようにもなった。今まで見られなかったマットに伏臥位姿勢をとる姿を見ることもできるようになった。ボールで伏臥位姿勢をとってきたことで、背中をつけるということに慣れてきたのではないかと思われる。</p>
保管場所 又は所有者	自立活動部


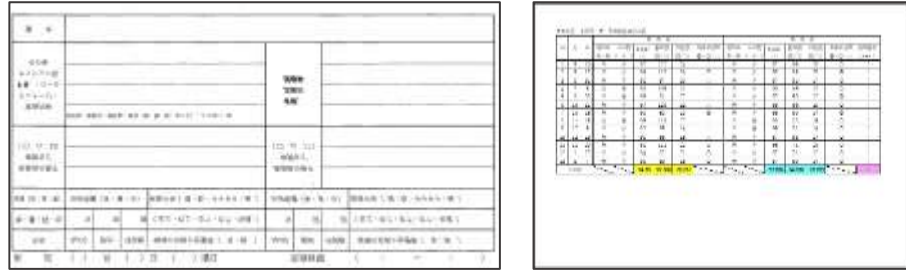


## FBM (ファシリテーション・ボール・メソッド) ②

教科・領域	自立活動
名称	ファシリテーション・ボール
写真 使用方法	
対象児童生徒 学年・グループ	高等部3年生 Fグループ
素材・作り方	<ul style="list-style-type: none"><li>・ ファシリテーション・ボール</li><li>・ キャンディボール</li></ul>
使ってみて (効果・反省等)	<p>本生徒は常に全身に力が入り、そうすることで姿勢を保っている。床に降りて活動することがほとんどなく、座位保持いすや車いすで過ごすことが多い。腹筋と背筋の筋力がアンバランスなため、天板を使用していないと前傾していることが多い。</p> <p>キャンディボールで背面部の緩めを行った。はじめは頭の下に手を置いたり、頭を持ち上げたり、股関節が屈曲したりして力が入っている様子がうかがえた。取り組みを続けるうちに頭を持ち上げたり、手を頭の下に置くことが少なくなり、徐々に頭の前まで揺れが伝わり、全身が緩んでいくのがわかった。お尻の下にボールを置いての取り組みでは、数を数えながら骨盤をひらいていくと、膝の屈曲が緩まった。また、力が入り肩が前に巻き込んでいたが、ボールを肩甲骨の間に入れて肩回りを緩めることで肩を床につけることができた。</p> <p>ファシリテーション・ボールでも、はじめは緊張し、頭を持ち上げて落ち着かない様子でいた。取り組みを続けるうちに頭をボールにつけ、リラックスする伏臥位では股関節を少しずつ伸ばしていくと力が抜け、可動域が広がり膝の位置が変わっていった。躯幹ひねりでは何回か取り組みをおこなっていると、首の力が抜け、ひねっている方向に自然に傾くようになった。</p>
保管場所 又は所有者	自立活動部



## FBM (ファシリテーション・ボール・メソッド) ③

教科・領域	自立活動
名称	ファシリテーション・ボールの活用
写真 使用方法	 
対象児童生徒 学年・グループ	<p>身体の緊張が強く、痰が貯留しやすい。両上肢の引き込みがある。姿勢保持椅子でいることが多く褥瘡ができやすい。学校では1時間に一回程度マットの上で側臥位姿勢をとることで褥瘡予防に努めている。</p>
素材・作り方	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ファシリテーション・ボール</li> <li>・ 実施記録用紙</li> <li>・ 数値をデータ化した表</li> </ul>
使ってみて (効果・反省等)	<p>毎回、実施前後に肺の聴診と酸素飽和濃度と脈拍数、呼吸数を計測した。その結果、実施前後の平均値を比較すると、酸素飽和度は95%→98%、1分間の脈拍数は99回→84回、1分間の呼吸数は21回→16回であった(小数点以下四捨五入切捨て)。全ての数値においてが実施後は良い数値になっていた。また、身体の緩みが顕著に表れていて、胸郭の動きが大きくなり、両上肢、両下肢ともに可動域が大きくなっていた。全身の緊張が緩和されることでリラックスできて血流もよくなり、健康の維持につながる。伏臥位で緊張が緩和されることで上肢を前に出して手が動かしやすくなる。音のなる絵本など、好きなものを近くに置くことで手を動かして触れようとしたり、顔を見たい方向に向けたりするなど、自発的な動きを促すことができる。ファシリテーション・ボールの特性上、体にそって面で支えてくれ、体重も免荷されることで無理なく心身のリラクゼーションをはかることができる。このように、普段とりにくい姿勢である伏臥位をすることでたくさんのメリットがある。今回は短時間の条件でも、ファシリテーション・ボールを使って体位変換、呼吸改善を試み有用性を確認できた。まだまだファシリテーション・ボールの使い道はたくさんあるので、時間を確保して実践していきたい。</p>
保管場所 又は所有者	





## 視線入力装置①

教科・領域	自立活動（個別）
名称	視線入力装置
写真 使用方法	<p>写真①</p>  <p>写真②</p>  <p>視線入力を行うときは、機器の設定を確実にすることが大切です。写真①の矢印がしめす、○印の中に、目が二つあります。Tobii4Cでこの画面を表示し、視線を読み込んでいるか確認します。写真②では生徒とディスプレイの距離をリボンで測っています。</p>
対象児童生徒 学年・グループ	肢体不自由を主たる障がいとする生徒 どのような児童・生徒も楽しめるソフトが開発されている
素材・作り方	Tobii4C、アシスタンド（ディスプレイ固定具）、パソコン、ディスプレイ
使ってみて (効果・反省等)	楽しんで画面を見られるように、キャラクター人形劇の動画を視聴することから始めました。写真①の画面で GazeTrace を選択し、どこを見ているか指導者が確認できるようにしました。キャラクターの顔に Gaze が表示され、顔を見ていることが確認できました。指導 2 回目では、視線読み取りの精度を上げるために、写真①の画面でキャリブレーション（視線の個別化した測定のために複数の箇所点滅する点をそれぞれ見つめる）を実施しました。2 回目の指導では点滅する点すべてを見ることができませんでしたが、3 回目の指導で、アシスタンドを調節しディスプレイの距離や角度を設定しなおすことで、点滅する点をすべて見ることができました。
保管場所 又は所有者	CR10




## 視線入力装置②

教科・領域	自立活動（個別）
名称	視線入力装置
写真 使用方法	 <p>ここに、視線があることを示す○が現れています。</p> <p>Tbii4C の GazeTrace を用いて、生徒が何を見ているかを客観的に把握します。</p>  <p>Tobii4C のこの画面で、矢印のある部分に GazeTrace という機能があります。</p> <p>透明のふわふわしたまるい輪の形で見ている場所を表示します。</p>
対象児童生徒 学年・グループ	肢体不自由を主たる障がいとする生徒 画面を見ることができる生徒 好きなキャラクター等がいる（ある）生徒
素材・作り方	Tobii4C、アシスタンド（ディスプレイ固定具）、パソコン、ディスプレイ インターネット上の動画
使ってみて (効果・反省等)	生徒が実際に動画のどこを見ているかを客観的に把握することが可能になります。アンパンマンを見ていないのに、「アンパンマンだね」などと答えるコミュニケーションの食い違いがなくなり、的確に物の名称を答えたり、生徒が興味を持ち見ているものが何かを把握しやすくなります。
保管場所 又は所有者	CR10





## 視線入力装置③

教科・領域	自立活動（個別）
名称	視線入力装置
写真 使用方法	 <p>プレゼンテーションソフトで好きな教員を見ると、その先生が歌う動画が流れる教材を作成しました。顔写真の上に、透明ボタンを作成しました。透明ボタンには、動画へのハイパーリンクを設定しました。</p>  <p>MiyasukuMouse で、画面をクリックする設定を行いました。透明ボタンを視線でクリックできるようになります。自分の視線だけで楽に、動画を開始できます。</p>
対象児童生徒 学年・グループ	肢体不自由を主たる障がいとする生徒 クリックと動画開始の因果関係が理解できる生徒
素材・作り方	Tobii4C、アシスタンド（ディスプレイ固定具）、パソコン、ディスプレイ
使ってみて (効果・反省等)	知らない人物と知っている人物二人を並べて、「どちらが〇〇先生ですか」という二択課題につなげる予定でしたが、動画を自分で操作できる楽しさに夢中で、好きな先生を固視し、何度も繰り返し MiyasukuMouse でクリックし、動画を再生していました。
保管場所 又は所有者	CR10



## 大分県立中津支援学校との交流

教科・領域	部活動（児童生徒会）
名称	大分県立中津支援学校との交流
写真 使用方法	 <p>大分県立中津支援学校との交流のために作成。 初めての交流なので、児童生徒会の活動内容を児童生徒会で作成し、大分県中津支援学校へ送付した。</p>
対象児童生徒 学年・グループ	児童生徒会
素材・作り方	<ul style="list-style-type: none"><li>「挨拶文」「イラスト・文字入力」「写真選び」「のぼりの説明」の4グループに分かれて作成した。</li><li>導入として、大分県立中津支援学校のHPを全員で検索し、相手校の活動内容や学校の様子を学習後、制作に取り組んだ。ICT機器を活用し制作を行ったグループもあった。インターネットで画像検索をしたり文字入力ができる児童生徒は、自らパソコン入力を行った。</li><li>作成後は、教師が1つにまとめ12月末に大分県中津支援学校へ送付した。</li></ul>
使ってみて (効果・反省等)	<ul style="list-style-type: none"><li>インターネット検索を児童生徒一人ひとりが行うことで、大分県立中津支援学校への興味関心をもつことができた。</li><li>児童生徒会の紹介文の作成にあたり児童生徒会の活動を振り返る機会をつくることができた。</li><li>相手が見えない活動だったので活動に見通しをもちにくい児童生徒もいたが、相手から返事が来たことで、児童生徒にさらに達成感を持たせることができた。</li></ul>
保管場所 又は所有者	地域支援委員会



**研修資料等**



## 自閉スペクトラム症（ASD）の理解と支援

教科・領域	地域支援委員会
名称	大阪整肢学院の職員向け学習会
写真 使用方法	<p>※ 大阪整肢学院の職員が都合がよいときに視聴できるよう、画面と音声を重ねて、見るだけで研修ができるようになっている。</p>
対象児童生徒 学年・グループ	大阪整肢学院の職員のみなさま
素材・作り方	プレゼンテーションソフトを使って作成した DVD
使ってみて (効果・反省等)	<p>昨年度に、大阪整肢学院の職員から「学習会」をもってほしいという依頼があったが、頓挫していた。2 学期に、個人的に当該職員に見てもらい、使える感触があった。</p> <p>現在、首席を通して、学院職員に向けて、使えるかどうかを確認中で、公にはまだ使用していない。</p> <p>もし、利用が定着するようなら、テーマを変えたものも作成していく予定である。</p>
保管場所 又は所有者	地域支援委員会



# 同和問題に関する人権学習の在り方

## 府立学校人権教育研修A報告会

### 同和問題に関する 人権学習の在り方

令和4年2月28日

#### 本日の研修の流れ

##### 1.同和問題について

- 1-1 同和問題とは
- 1-2 歴史的経緯
- 1-3 部落差別の現在とその課題

##### 3.人権学習を充実させるために

- 3-1 学年・学校で取り扱うこと

##### 2.人権学習を実施するにあたり

- 2-1 同和問題に関する人権学習ねらいの設定
- 2-2 2つの意見書
- 2-3 人権学習の内容
- 2-4 授業の進め方

##### 4.おわりに

- 4-1 まとめ
- 4-2 参考資料

#### 1.同和問題について

- 1-1 同和問題とは
- 1-2 歴史的経緯
- 1-3 部落差別の現在とその課題

#### 1-1 同和問題とは

同和問題とは  
部落差別により基本的人権を奪われてきた人がいるという社会問題



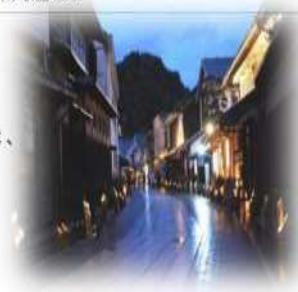
#### 1-1 同和問題とは

部落差別とは  
特定の地域に居住する人々などに対して、結婚・就職を含む日常生活の上で差別する行為



#### 1-1 同和問題とは

被差別部落とは  
江戸時代の身分制度のもと、差別の対象となった地域



#### 1-1 同和問題とは

同和地区とは  
被差別部落のうち、差別を撤廃するために、行政政策の対象として指定された地区



#### 1-2 歴史的経緯

- 967年—延喜式施行(触穢思想)
- 江戸時代—身分制の確立
- 明治4年—太政官布告(解放令)
- 大正11年—全国水平社設立
- 昭和40年—同和対策審議会 答申
- 昭和45年—同和対策事業特別措置法(以下、同対法)の制定
- 平成14年—同対法の失効

### 1-3 部落差別の現在とその課題

▶恋愛・結婚に関する差別  
私的な領域であり、直接アプローチすることが難しい・・・

個人の身元調査を目的として不正に個人情報を取得するなど

➔

本人通知制度を導入

個人情報の不正取得を防止するための制度を導入



### 1-3 部落差別の現在とその課題

▶インターネット上での部落差別  
偏見の伝播や人・地域をアライジング

ウェブ上での  
地図アプリの誤り

🌐

Q&A式の  
掲示板の書き込み

Q&A式の  
掲示板の書き込み

地名検索の  
ネット販売

出版中止の仮処分決定、インターネットのモニタリングと削除要請

### 1-3 部落差別の現在とその課題

部落差別の  
不当性の認識

差別をしない人  
を増やす

差別を生み出す  
社会の改革

- ## 2. 人権学習を実施するにあたり
- 2-1 同和問題に関する人権学習ねらいの設定
  - 2-2 2つの出発点
  - 2-3 人権学習の内容
  - 2-4 授業の進め方

### 2-1 同和問題に関する人権学習のねらいの設定

◀何のため▶

差別をしてはいけない

➔

差別に気付くことができる  
なくす行動ができる

◀誰のため▶

すべての生徒が自分の生き方を考えるため

### 2-2 2つの出発点

- ▶ 教員が部落差別の現実を認識  
部落差別は遠い存在でも無解でもない
- ▶ 児童生徒の実態把握  
学習を通して問いを具体的に打ち取り進む

- ### 2-3 人権学習の内容
- ▶ 気になる児童生徒に届ける意識
  - ▶ 事実に基づく
  - ▶ 差別解消へ希望が持てるように
  - ▶ 生き方の学べるような取り組み
  - ▶ 新しい研究成果を反映させる
  - ▶ 様々な状況にある生徒たちへのアプローチ

### 2-4 授業の進め方

教員の姿勢

「部落差別」を  
許さない

ファシリテーター  
としてともに学ぶ

児童生徒の授業におけるモチベーションを高めることができる

### 2-4 授業の進め方

多様な意見が交流できる場を作る

一方的でない

全ての生徒が  
参加

間違ってもよい  
空間

気になる  
児童生徒の観察

意見を出し合い、  
交流し気づきあう

➔

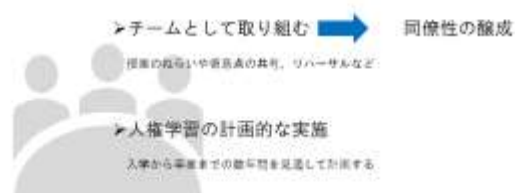
信頼関係の形成



### 3. 人権学習を充実させるために

#### 3-1 学年・学校で取り組むこと

### 3-1 学年・学校で取り組むこと



### 4. おわりに

#### 4-1 生徒に育みたい力

#### 4-2 参考資料

### 4-1 生徒に育みたい力

今の社会で生きていく・より良く変えていく力



### 4-2 資料紹介

▶斎藤直子、「結婚差別の社会学」、勁草書房

▶府立学校人権教育研修A資料

「ゆまにてなにわ」

「人権教育リーフレット」など



# ボランティア養成講座

**第 1 回**  
**ボ ラ ン テ ィ ア**  
**講 座**

2021年8月5・6日  
大阪府立中津支援学校

※水分摂取等は適宜OK。  
※新型コロナウイルス感染拡大防止のため、マスクの着用及び、飲食中の会話はお控えください。



中津「多目的棟の棟」

## 本日のながれ

1. 校内見学
- 2-1. 講義 「支援学校とは」
- 2-2. 「中津支援学校について」
3. 実技 「車いす体験」

## 1. 校内見学

- 1階：小学部棟・職員室等
- 2階：中学部棟・特別教室・保健室等
- 3階：高等部棟・多目的ホール  
特別教室棟
- 屋上：プール

## 2-1. 支援学校とは

大阪府の支援教育  
～障がいについて～

首席 川村 弘之

## 2-2. 中津支援学校について



## 2-2. 中津支援学校について

- ①校種等
- ②在校児童生徒
- ③授業の一場面
- ④そのほかいろいろ



## 4. 実技「車いす体験」

- ①車いすいろいろ
- ②車いすを押してみよう

**第1回**  
**ボランティア**  
**講座**

2021年8月5・6日  
大阪府立中津支援学校

※水分摂取等は適宜OK。  
※新型コロナ感染拡大防止のため、マスクの着用及び、飲食中の会話はお控えください。

中津「森野園の森」 ボールから遊ばせよう～

**本日のながれ**

1. 実技「車いす体験」
2. 講義「学校ボランティアについて」
3. アンケート

ミニ展示会

**1. 実技「車いす体験」**

- ①児童生徒の好きな場所
- ②以外ときづかない道いろいろ

**2. 「学校ボランティアについて」**

- ①『教育コミュニティづくりの活動』
- ②本校でのボランティア

①『教育コミュニティづくりの活動』

- 1, 学校支援活動
- 2, おおさか元気広場
- 3, 家庭教育支援

②本校でのボランティア

学校支援活動を活用し…

- ・ **学習支援**…サークル活動、社会人支援員
- ・ **部活動の支援**…パソコンサークル、生徒会活動
- ・ **花壇等の整備**…地域コミュニティ、社会人支援員

**サークル活動**  
～社会人支援員～



- ・よみかかせ
- ・手あそび
- ・わらべうた

etc.




**児童生徒会清掃活動**  
～地域コミュニティ～



- ・児童生徒会の活動の一種として、学校周辺の清掃活動。
- ・地域の方々と協働で行っている。



**花壇等の整備**  
～地域コミュニティ・社会人支援員～



- ・校舎内の花壇整備
- ・児童生徒と花苗植え
- ・ハーバリウムづくり
- ・ハーブの手漉  
etc.







# 防災士育成研修での取組み

○ 研修日時：2021年9月9日（木）～9月10日（金）

○ 時間割

1 日 目	1～3 時限 (9:00～12:00)	4 時限 (13:00～14:00)	5 時限 (14:10～15:10)	6 時限 (15:20～16:20)	7 時限 (16:30～17:30)	17:30 ～ 17:40
9月9日 (木)	防災士に期待される活動 防災訓練と災害図上演習	災害情報の活用と発信 熊本 邦彦 (江戸川大学教授・名古屋大学防災連携研究科非常員教授)	耐震診断と補強 熊本 邦彦 (江戸川大学教授・名古屋大学防災連携研究科非常員教授)	土砂災害 山下 遼 (シバタ工業株式会社 理事)	地震・津波による災害 川崎 淳司 (株式会社ハイドロ 総合技術研究所 取締役 名城大学特任教授)	通 信 事 項
	久保 孝太 (NETトレーニングシステムズ株式会社)					
9月10日 (金)	1～3 時限 (9:00～12:00)	4 時限 (13:00～14:00)	5 時限 (14:10～15:10)	6 時限 (15:20～16:20)	7 時限 (16:30～17:30)	試験終了 次巻 編次
	AED・心臓蘇生講習 AED普及協会 ※簡単な実技を行いますので、動きやすい服装でご参加下さい。	行政の災害救助・応急対応 河田 進昭 (関西大学理事・特別任命教授)	自主防災活動と地区防災計画 河原 恵昭 (関西大学理事・特別任命教授)	気象災害・風水害 江本 洋司先生 <del>（日本気象株式会社）</del>	防災士資格取得試験 (日本防災士機構)	終了 送 検 与

2日間にわたり、防災に関わる様々な内容の講義を受講した。どれも学びの深いものであり、今後の学校の安全管理に繋がっていきたい。

以下に、1日目に実施された「防災訓練と災害図上演習」についてまとめる。

## 「防災訓練と災害図上演習」について

本講義では、防災訓練の中でも図上演習について学び、「HUG」という避難所運営ゲームを実際に行なった。

### 実技訓練（緊急対応の模擬行動）

時間的余裕がない初期や応急期に行われる対応行動を、迅速かつ円滑に行うために必要な技能の習得を目的に行われる。

### 図上演習（一定の状況下でのシュミレート）

模擬的な災害状況を付与し、その下で情報収集・伝達や意思決定を試す。

→ 時々刻々変化する災害状況のイメージを具体的に描き、迅速かつ的確な情報収集・伝達や意思決定のノウハウを習得することを目的に行う。

状況付与の精細度	手法の名前	特徴(対象者と有効性)
状況自己創出型 (アバウトな状況付与)	1.状況予測型	市町村のトップなどの演習によく使われている。防災対策を考える際、適している手法
	2.防災グループワーク	一般市民やボランティア、自主防災組織の役員などが防災対策を考える際、適している手法
	3.DIG(Disaster Imagination Game)	自主防災組織などが地域の防災マップや防災計画を作るために行われることが多い。各地で非常に多く行われており、実績が多い手法
詳細状況付与型	4.図上演習	防災担当者が初期期に直面する厳しい事態を理解するとともに、既存のマニュアルや計画の有効性を検証し実践的なものにするのに適した手法
	5.避難所運営ゲーム(HUG)	避難所の開設・運営責任者になった場合、直面するさまざまな事態を理解し、マニュアルを作成・検証するのに適した演習手法
	6.クロスロード	災害時によく見られるトレードオフという状況への対応を考えることに特化した演習手法

図上演習の代表的な手法  
(防災士教本より)

※ HUGとは？

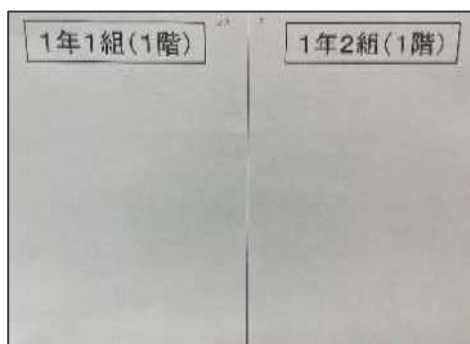
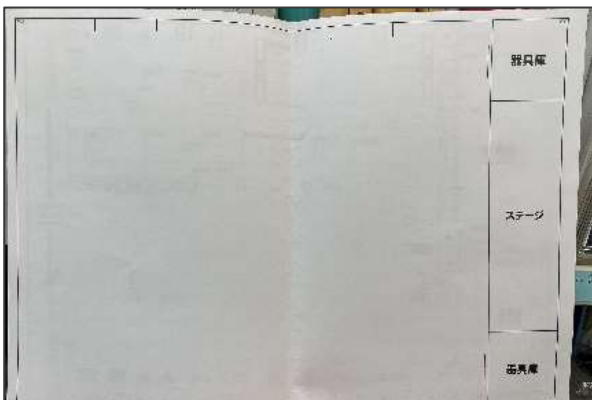
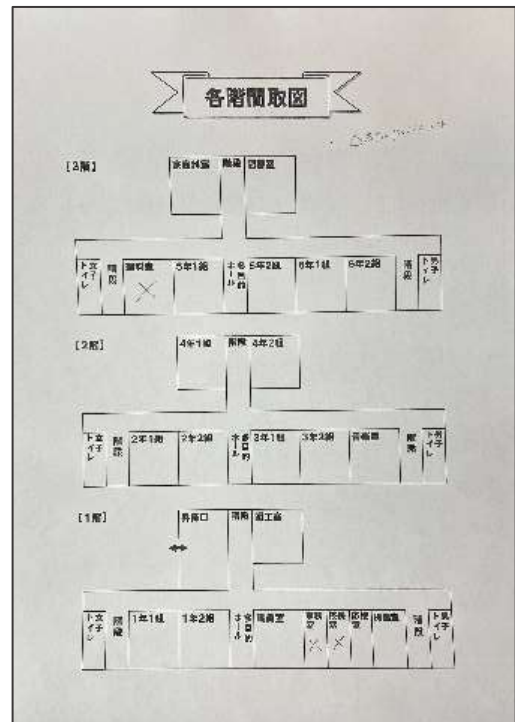
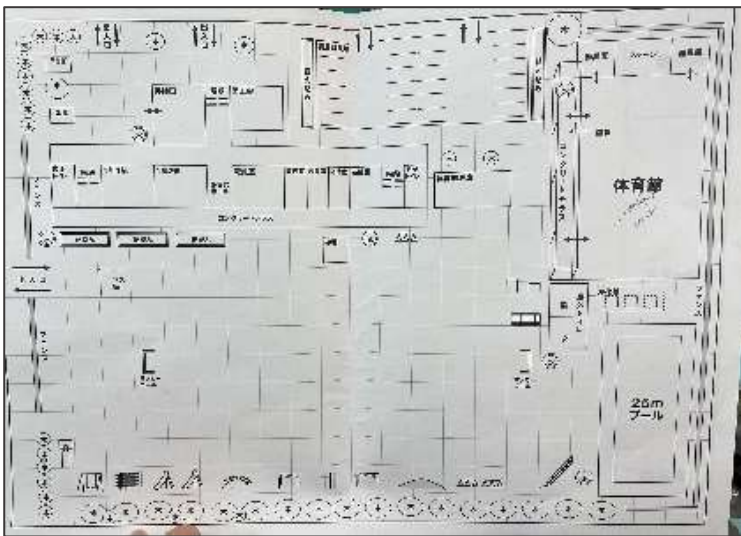
〈HUG = Hinanjyo (避難所) Unei (運営) Game (ゲーム)〉

避難所の「年齢・性別・国籍」やそれぞれの抱える事情が書かれたカードを、避難所に見立てた平面図に適切に配置し、避難所で起こる様々な出来事にどのように対応していくかを模擬体験するゲーム。班ごとに、討議、相談しながら「優先順位、ルール等」を決めて、避難所の開設・運営をシミュレートする。(消防科学総合センターHPより)

**HUGを実施するにあたって**

• ゲームスペース等の準備

1グループで1つのゲームスペースを囲むように配置する。1グループは7人以下(内1人は読み上げ係)で行うことが推奨されている。ゲームスペースが準備できたら、平面図等のゲーム用シート(※1)をグループ分コピーし、並べる。この他、必要に応じセロハンテープ、多色油性ペン(又はマーカー)、筆記用具、メモ用紙(A4白紙など)、付箋、ホワイトボードなどを用意する。

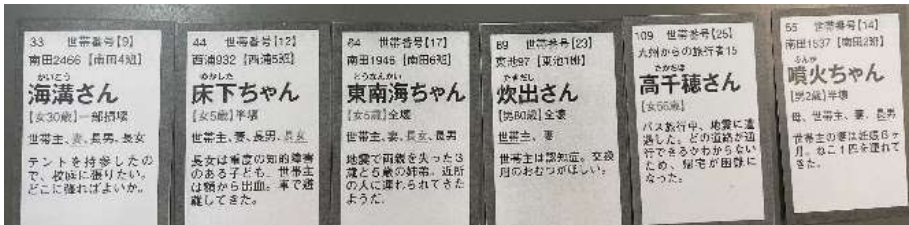


※1 平面図用のゲーム用シート

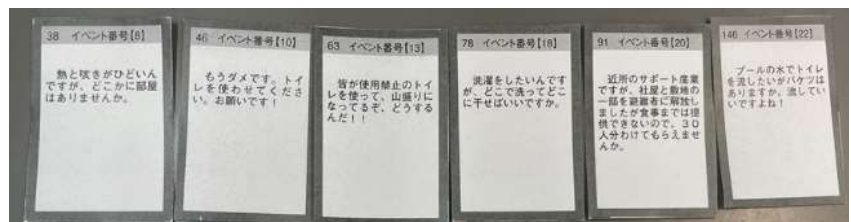


HUG は、1 セット 250 枚のカードで構成されている。次々と付与される避難者カードとイベントカードに対し、避難者の振り分けや対応を模擬体験する。

- 避難者カード： 熱がある子ども、認知症の高齢者、日本語が話せない外国人、ペット連れ、透析患者等、避難者の様々な特性が書かれている。
- イベントカード： 何らかの様々な出来事が起こる。



← 避難者カード



イベントカード →

- 避難当日の前提条件（震度、気象条件、季節、時間、被災状況、避難者の様子 等）に対し、各グループで、避難所の開設・運営（避難者をどう割り振っていくか等）をシミュレートする。
- 避難所運営に必要なことの一例
  - ・ 運営組織づくり
  - ・ 避難者スペースの割り振り
  - ・ 問い合わせや取材への対応、名簿の作成
  - ・ 食料、物資の受け入れ、配給
  - ・ トイレ、ごみ、シャワー、ペット
  - ・ ボランティアの受け入れ 等

⇒ ゲーム終了後、意見交換の時間を設け、様々な考えを共有することが大切☆

～ 実際に HUG を体験してみても ～

今回の講義では、コロナウイルスの影響により、グループ単位での取り組みを実施できず、個人で避難者の割り振りをを行い、避難所の運営を模擬体験した。

避難所運営は決して容易なことではないと認識していたが、HUG を実施してみて、いかに難しいかということ強く実感した。スペースの有効利用や、安全面、様々な人の実態や背景…。臨機応変な対応力や判断力、そして周りの人との協力の大切さを学ぶことができた。

今回の経験を今後活かし、校内の安全管理に努めていきたい。



## 学校看護師配置に向けて

令和3年度より学校看護師配置に向けた検討を令和2年6月より行った。令和2年度に「校内医療的ケア検討会議」を実施し、学校看護師配置までの流れは以下の通り進めた。

### 【 学校看護師配置までの流れ 】

- 令和2年 6月： 医療的ケアを校内で行うことについて検討をおこなった。また、「学校看護師配置についてのアンケート」の実施を行った。
- 7月： アンケート結果を係りで話し合いを行った。
- 8月： 運営会議・職員会議で今後の流れとマニュアル作成を行うことを提案する。また、「校内医療的ケア検討会議」を実施することを提案した。メンバーは教頭・首席（1名）健康安全指導部（各学部1名）・養護教諭（2名）の7名で、令和2年度末までとした。
- 9月： 学校より教頭・養護教諭・保健主事、大阪整肢学院より看護長・A棟師長・B棟師長が参加する、保健連絡会で学校看護師配置の現状までについて説明を行う。また、日帰りの行事については、学校看護師が付き添いをおこなえるが、泊行事については、今まで通り大阪整肢学院にお願いすることも説明した。物品の受け渡しについても今後、検討していく必要があることを確認した。
- 10月： 第1回校内医療的ケア検討会議を実施。
- ① 次年度の看護師配置を教員定数1とし、20時間を2名で話し合った。
  - ② 次年度の医療的ケアを進めるための組織を委員会とすることを話し合い、校長に提案することを決めた。
  - ③ 看護師の場所として、職員室と保健室の2つに絞り話し合いを行った。この時点では、職員室の座席数の確認、保健室の片づけを行いながら考えることになった。また、物品の置き場についても考えた。
  - ④ 次年度、学校看護師を配置するにあたり、必要物品について話し合いを行った。
- 11月： 10月に支援教育課より送付された「大阪府立支援学校における医療的ケアの実施についてのガイドラインに係る資料について」「大阪府立支援学校における医療的ケアの実施についてのガイドラインについて」や他の府立学校が作成しているガイドラインを参考に、本校のガイドラインの作成をおこなった。また、保健連絡会で再度、日帰りの行事については、学校看護師が付き添いをおこなえるが、泊行事については、今まで通り大阪整肢学院にお願いすることを確認し、週に20時間を2名で予定していることを伝えた。看護師が決まっていないことも伝え、探すための協力を依頼した。

- 令和3年 1月： 保健連絡会で、学校看護師配置についての経過報告を教頭よりおこなった。また、医療的ケア検討会議のメンバーに作成したガイドラインを回覧で確認をおこなった。回覧後、校長にガイドラインの説明と確認をおこなった。
- 2月： 運営会議・職員会議で「本校のガイドライン」の提案をおこなった。また、大阪整肢学院の院長・看護長・主治医（学校医）に個々にガイドライン等の説明を教頭と保健主事でおこなった。保健連絡会でも、看護長・A師長・B師長にガイドラインの説明をおこなった。
- 3月： 保健連絡会で4月当初に学校看護師の紹介と児童生徒の情報交換を行うための保健連絡会を依頼した。  
次年度学校看護師の配置に伴い、保健室の片づけを検討会議メンバーでおこなった。

### 【 学校看護師配置までの流れ 】

書式	書式名	依頼	依頼時期
(書式2)	医療的ケア実施依頼書	学院長より学校	R3.2.22
(書式4)	医療的ケア実施について（お願い）	学校より主治医	R3.3.3
(書式5)	府内特別支援学校 喀痰吸引等指示書	学校より主治医	R3.3.3
(書式6)	医療的ケア実施について（記録）	拡大医療的ケア等安全委員会 で学校長決済	R3.4.7
(書式7)	医療的ケア実施について（通知・同意書）	学校より学院長	R3.4.13